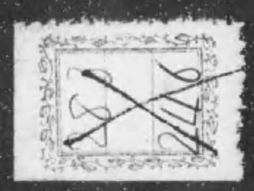
19 m
9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5



特116
73

帝國圖書館藏

內務大臣正四位勳二等濱口雄幸氏題字
長野縣知事正五位勳四等梅谷光貞氏題字
衆議院議員戸田由美氏題字
上伊那郡長從七位杉原定壽氏序文
長野縣町村長會長福澤泰江氏序文
池上久太郎編纂

# 上伊那聯芳錄

全

大正
15. 7 28
內交

發行所　上伊那聯芳錄編纂會

## ◇五ケ條ノ御誓文

一、廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ
一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ
一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメンコトヲ要ス
一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
一、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

慶應四年三月十四日

## ◇皇室典範發布勅語

天佑ヲ保有シタル我日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ遺訓ヲ明徵ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

御名御璽

明治二十二年二月十一日

## ◇憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及ヒ將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ遺德ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良アル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ奬順シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

## ◇帝國憲法上諭

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ恵撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其康福ヲ增進シ其懿德良能ヲ發達セシメンコトヲ願ヒ又其ノ翼賛ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財產ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ

將來若シ此ノ憲法ノ條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ附シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在庭ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名御璽

明治二十二年二月十一日

自治ハ國本ニ於テ基ス

## ◇市町村制發布上諭

朕地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ增進スルコトヲ欲シ隣保團結ノ舊慣ヲ存重シテ益之ヲ擴張シ更ニ法律ヲ以テ都市及町村ノ權義ヲ保護スルノ必要ヲ認メ茲ニ市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十一年四月十七日

忠誠

奉公

梅山書

玉成培

國基

大正十五年初夏

代議士 戸田由義

# 序言

地方制度布かれて、既に三十有餘年を經此の間時勢の進展は駸々乎として進み、我等國民の智能年と共に發達し昔日の比にあらず、政治上の訓練亦大に見るへきものあり、爲めに政府は我憲政史上一時代を劃する所謂普通選擧法の實施を斷行するに至れり、而して普通選擧制度の確立に伴ひ、地方制度の上にも亦自治に參與するの權能を擴充するの必要を認め、之か改正法律は既に議會を通過し近く公布を見むとするに至れり、斯の民衆の自覺に基く選擧權の擴張と共に自治權尊重の意味より町村に對する從來の三次監督を二次監督制に改むる目的を以て多年地方行政に歷史を有する郡役所廢止は斷行せらるゝに至り、既に地方官官制は去る六月三日勅令第百四十七號を以て改正を見たり、洵に吾立憲政治竝自治行政上の一大革新なると共に我等國民は大自覺を以て之に當り、能く制度革新の趣旨に副ひ各人の自奮自勵に依り自治有終の美を濟さしむるに努力し以て國家の圓滿にして健實なる進展を期すへき責務を有するなり。

憲政を談し地方の自治を論せむとする者は、先つ過去に於ける其の變遷沿革と其の時務に鞅掌活躍せる人物の如何を探ね現在の狀況を明かにし考究する所あからさるへからす、斯くして將來の憲政及自治の發展を期し駸々として進展して止まさるの世運に後れさるを得へき乎、上伊那聯芳錄の發刊も惟ふに此の意に外ならさるものと信す即ち記して序となす。

大正十五年六月二十日

長野縣上伊那郡長　杉原定壽

## 序

現代の國民生活に就て、われ等は常に二樣の觀察をする、即ち文化的には華と野とかあり、經濟的には生産と消費とがあり、藝術的には創造と享樂とがあり、政治的には集權と分權とがあるが、夫等の世相を通して見るときは、大体は都會と田舍に依りて別る、ものである、即ち都會は華であり消費であり享樂であり、中央集權の代表である、之に反して田舍は野であり生産であり創造であり地方分權の代表である、これ等現象が因となり果となりて、都會は浮華に田舍は健實に其特色の現れがある、この意味に於て、田舍は國家の基礎であり地方は國家の本であると云ふことは決して誣言ではないと信する。

友人池上久太郎君は常に田舍に雌伏し半生職業を田舍に求め惇々として精勵す職に上伊那郡農會に在ること二十有五年この一事を以てするも君か純粹なる田舍崇拜者たることを知らる、其田舍に親み、田舍に憧かれ、常に田舍を以て極樂淨土と觀し、田舍を以て天下を救濟せん抱負と識見を有せり、這回地方人士の國家社

會に貢献せる所の跡を蒐め上伊那聯芳錄の發行を企て今方に成らんとす、其田舍人を紹介する所以は即ち君か田舍を愛し且つ貴ふ所の素懷に因れり、稿了りて叙を余に需めらる、余これを一讀するに其の掲くる所の人士は皆地方の發達に與つて力あり、我等の慕へる田舍の啓發に日夜の努力を捧け其創造に參し生産に加はり時に又地方の政治に與り以て國家の基礎たる事業に讃したる功勞者である、書中の人士に敬意を表すると共に又編者の勞を感謝すと云爾

大正十五年六月

長野縣町村長會長　福澤泰江

# 自序

彌爾曰く、凡政體政法は猶ほ山に登るが如く、其の麓よりして一歩一歩に高地を占め、終に最頂の一點に達す可く、決して山麓より一躍して山嶺に臻るべきものに非らざるなりと、吾帝國が明治大帝の聖旨に依り、建國以來の君主專制の政体を改めて、立憲自治の制度を布きてより、實に此に三十餘年の歳月を經たれ共、未だ憲政及地方自治政治の理想的進展を見ざるは甚遺憾とする所なり、然りと雖其今日に至るの間、憲政の爲將又地方自治政治の爲に、一身を犧牲として努力したる人士亦尠からず、今や將に普通選擧法の實施を見、又郡役所の廢止に依りて地方自治權此に確立し、更に一段の進展をなさんとするの時に到達せるものは、是等人士が地方自治體の經營に心血を注ぎ、奮鬪努力の賜と謂はざるを得ず、此の時に當り是等人士の事蹟を江湖に紹介し、後進者の龜鑑となす、亦故無きに非らざるなり、題して上伊那聯芳錄と云ふ、若しこの小册子にして、吾鄕黨の士が歩一歩漸く進展して、最頂の一點に達し、所謂憲政有終の美を濟すの資料ともな

らば、編者の滿足之に過ぎざる所なり、玆に發刊に際し敢て一言を卷首に記する所以なり。

大正十五年六月郡役所廢廳式の日

## 編者識

## 凡例

一、本書は上伊那郡内に於けゝ、憲政及地方自治制施行以來、之が爲めに鞅掌盡瘁したる人士、並各種の事業に成功し、又は學問美術其他凡ゆる方面に名を知られたる人々の經歷を列記し、以て青年子弟の龜鑑となさんとするの趣旨に出でたるものにして、之に關係ある人士の全部を網羅することは、素より理想としたる所なれ共、之が經費の出途を公費に求むること能はざるものなるが故に、會員組織となし入會せられたる人々に限り掲載するの止むを得ざるに至りたるものにして、加之入會者勸誘意の如くならざりしと、刊行期の餘り遲延せんことを虞れたるが爲め、僅かに豫定の約半數を收容したるに過ぎず、地方自治政治の爲に功勞ある名士にして逸したるも亦尠からざるは最も遺憾とする所なり、他日再版刊行の期を得ば增訂を爲すべし

一、本書は憲政及地方自治制施行以來、之が爲に盡瘁したる人々の、經歷事蹟を記述するを主としたるものなれば、其以前即ち舊幕政時代の事蹟及家系の由來等は多くは之を省略せり、之等を詳記したる書冊は他日更に刊行の期あるべし

一、記事は各人に就き年次を逐ふて、經歷を記するを本体としたれ共、特に希望に依り傳記体となしたるものあり、故に記事一樣ならず

一、記事の材料は、入會者諸君の經歷提示に待ちたれ共、多くは之が提示を躊躇せられたり、故に町村役場

# 編者識

就にき調査し、又は特に依頼して調査報告を得、且上伊那郡會誌、上伊那郡農會沿革概要、産業組合一覽、其他を參考として之を補ひたれ共、尚精粗あり不備杜撰たるを免れず

一、排別は、町村別いろは順となしたれ共、頁の組合せ都合上並に原稿の提出遅れたる等の爲、間々散出せるものあり

一、本書は主として、大正十四年九月現在を標準として、材料を蒐集したるものにして、其後の町村長其他名譽職の更迭は可成訂正したれ共、尚多少の異動あるを免れず、且つ校正粗漏の點なきにあらず

以上の如く、完備せざるものなることは甚汗顔に堪へざる所なり、他日再版の期あらば増訂すべし、世間若し本書類似の發刊計劃あり來りて予に質さるれば、快く這回の經驗と其執るべき方法とを語りて參考に供すべし

終りに本書編纂に際し、各種の便宜を與へられたる諸氏に、深く感謝の意を表す

大正十五年六月

# 目次


伊那富村……自一頁
中箕輪村……自四六頁
南箕輪村……自六六頁
西箕輪村……自八七頁
伊那町……自一一八頁
西春近村……自一五九頁
宮田村……自一七〇頁
赤穂村……自一七五頁
飯島村……自一九〇頁
七久保村……自二一〇頁
上片桐村……自二一二頁
片桐村……自二一三頁
南向村……自二一六頁
伊那村……自二二〇頁
東春近村……自二三〇頁
富縣村……自二四八頁
河南村……自二八八頁
美和村……自三〇一頁
伊那里村……自三三九頁
藤澤村……自三五六頁
長藤村……自三六四頁
高遠町……自三七二頁
美篶村……自三九〇頁
手良村……自四一〇頁
箕輪村……自四二八頁
東箕輪村……自四三一頁
朝日村……自四三四頁
小野村……自四四六頁
川島村……自四五〇頁
伊那町、河南村、追加……自四六〇頁
附錄
地方政治の回顧……自四六三頁
上伊那郡歴代郡長……自四七二頁

會津若松市出身ニシテ中央大學法律科卒業後愛知縣屬內務屬ヲ經テ本縣上高井郡長ヨリ大正十三年七月二十五日本郡長ニ任セラル因ニ祖先ハ高遠城ノ士ナリト謂フ。

上伊那郡長

杉原定壽氏

伊那警察署長

小松吉治郎氏

上伊那郡伊那里村出身、明治三十八年十月長野縣巡査拜命豐科警察署在勤、明治四十三年六月巡査部長トナリ臼田警察署勤務、大正三年九月警部試驗ニ合格、同月十六日警部補ニ任セラレ警察部高等警察課勤務、大正九年二月一日警察官練習所入所ヲ命セラレ、同年七月三十日卒業、大正六年四月一日岡谷警察分署長ヲ命セラレ、同年六月任警部、其ノ後警察部高等警察課、赤穗警察分署長、福島警察署長等ヲ經テ、大正十三年十月伊那警察署長トナリ今日ニ至ル。

衆議院議員

戸田由美氏

明治十九年六月ヲ以テ東春近村五拾七番地ニ生ル。

明治二十六年東春近尋常高等小學校ヘ入學、爾後松本中學校ヲ經テ慶應大學理財科ヲ卒業ス。

明治四十三年東部遊學ヲ了リ歸郷後長野電燈會社伊那支社ニ勤務、又南信毎日新聞社專務取締役トシテ專ラ地方事業ニ貢献シ傍ラ青年會ニ關與セラル。

大正六年支那視察。

同九年東春近村會議員ニ當選

大正十一年ヨリ十三年迄北米合衆國ヲ視察。

同十三年五月衆議院議員ニ當選。

同十五年衆議院派遣員トシテ滿蒙視察。

尚君ハ恩賜財團濟生會々員タリ。嚴父助次郎君ハ嘗テ上伊那郡會議長タリシ人ナリ。

伊那富村

武井覺太郎氏

伊那富村

## 武井覺太郎君

明治元年九月五日を以て伊那富村字宮木に生る、幼名を寅太郎と云ふ、父君の後を承けて製糸業を經營し、父君歿後襲名して覺太郎と改めたり、製糸業は漸次擴張して、郡内第一の大製糸場を經營するの傍、地方の公共事務に鞅掌したること尠からず、其主なるものを擧ぐれば

明治卅四年上伊那生糸同業組合長勤務
同四十一年長野縣生糸同業組合聯合會評議員勤務
同年伊那富村長に當選就職
同年伊那富村外三箇村組合會議員に當選、爾來數次再選現任中
同四十三年上伊那生糸同業組合長勤務
同四十三年伊那税務署管内宅地地價修正調査委員勤務
同四十四年及大正三年伊那税務署管内營業税調査委員勤務
大正四年九月長野縣會議員に當選、同年同縣參事會員となる
同四年日本赤十字社特別社員に推薦せられ、同社商議員を囑託せらる
大正九年武井製糸場は片倉製糸紡績株式會社と合同し爾來中央の實業界に關係するに至り居を東京市本郷區駒込追分町に移せり、現在關係せる會社銀行等左の通り
株式會社上伊那銀行取締役
片倉製糸紡績株式會社常務取締役
片倉生命保險株式會社取締役

富國火災海上保險株式會社監査役
日東紡績株式會社監査役
株式會社横濱取引所理事
信產館製糸株式會社監査役
尙君は公共事業其他に金品を寄附したること尠からず其主なるものを擧くれば
恩賜財團濟生會寄附金壹千圓
伊那富小學校基本財產及伊北農商學校伊那高等女學校
建築費其他寄附計金四万九千五百圓
長野縣育英資金寄附壹千五百圓
伊那富圖書館寄附貳千圓
伊那富村宮木水道組合寄附三万二千六百圓
神社佛閣寄附計金二万六千五百圓
諸救濟費寄附金壹萬六千五百圓

伊那富村

## 林　馨君

明治十三年十二月十九日伊那富村に生る、林國重長男なり、明治二十七年村立伊那富高等小學校卒業、同三十年同校同窓會副會長に同三十二年同會長に擧げらる、同三十三年徵募に應じ騎兵第十五聯隊に入營、同三十四年十二月一日上等兵、同三十五年十二月一日伍長に任ぜられ、同三十六年十一月三十日現役滿期、同三十七年二月日露の事起り充員應召近衛騎兵聯隊、同三月外征從軍各地に轉戰、同十二月一日任軍曹、同三十八年十一月凱旋東京歸着、同二十日召集解除、同三十九年一月羽塲消防組小頭、同年四月一日明治三十七八年戰役の功に依り勳七等青色桐葉章及金參百圓並勅定の從軍記章を授けらる、同五月伊那富村在鄕軍人團長に當選、同月軍人恩給法に依り給助金八拾圓を給せらる、同四十年二月本村在鄕軍人共勵會長に當選、同十月忠勇顯彰會長野縣上伊那郡委員を囑託せらる、同四十一年十月同會總裁竹田宮殿下より特別四等功勞章を同會々頭より襟針一個を賜はる、同年十二月長野縣警務長より功勞證書を與へらる、同四十二年四月村收入役に就職、同月日本赤十字社長野支部上伊那郡委員部伊那富村補助分區委員を囑託せらる、同十二月本社長より本社の主旨を協贊し社事に盡力せし廉を以て謝狀を、長野支部長より社業上盡力不尠廉を以て本社長の謝狀に副へ木杯一個を、郡委員長より同上菓子器一個を贈與せられ、同四十四年十二月飯田聯隊區司令部附となる、大正四年十一月勅定の大禮記念章を賜はる、同十二月一日任曹長、同六年四月一日免飯田聯隊區司令部付、同五月軍人恩給法に依り免除恩給を給せらる、同七年一月羽塲消防組小頭を被命、同年三月帝國在鄕軍人會伊那富分會長を囑託せらる、大正八年三月伊那富村學務委員(常設)に當選、同九年七月國勢調査委員を被命、同十一年一月羽塲消防組頭被命、同十二年三月本村農會總代、同四月本村農會副會長に當選、大正十二年十月一日普通恩給を給せらる、同十四年四月本村村會議員に當選し現に其職にあり。

伊那富村北大出區

## 林　種　平　君

明治元年を以て生る、小學校卒業以來農蠶業務の傍ら漢學國學を研究し地方に有名の國學者たり、冬期間は地方青年有志者の希望に依り家塾を開き門下生多數あり又公務としては北大出區長、村學務委員、神明社氏子總代、明光寺担徒總代、藥王寺信徒總代、其他を勤む、大正六年四月伊那富村々會議員に當選せるも所感あり辭して受けず君の人格推して知るべし、長男二三彦氏は長野師範學校を卒業後國學院大學を卒業し大正十五年四月より南安曇高等女學校に奉職せり。

伊那富村四百四拾壹番地

## 林　芳太郎君

萬延元年を以て生る
明治貳拾六年一月羽塲耕地總代に當選
仝三十四年十二月伊那富南學區會議員に當選
仝四十年一月羽塲區長に當選
仝四十三年五月伊那富村學務委員に當選
大正二年四月伊那富村會議員に當選
仝五年二月伊北農蠶學校組合會議員に當選就職せる等村治の爲めに盡す所尠なからず。



伊那富村五百三十八番地

## 故林　孝　治君

文久三年五月十六日中箕輪村木ノ下に生る、明治七年一月より同年十二月迄佐藤國記氏に就き學を修む、同十年四月羽北學校に於て小學校全科を卒業し、同年四月より十二月迄同校代用教員勤務、同十二年一月より十三年十二月迄遠幸森氏に就き普通學を修む、同十四年一月より十二月迄西筑摩郡西野小學校に勤務、同十五年一月より同十六年十二月迄高橋敬十郎氏に就き漢學を修む、同二十年七月より伊那富村役塲書記勤務、同二十一年十二月東京簿記速成學舍に於て簿記學を修む、同年十月より東京英吉利法律學校に入り法律學を研究す同時に東京帝國大學第一醫院に傭員となる、次て病を得て歸鄉す、同二十二年八月伊那税務署土地臺帳改正に付き傭員を拜命、同二十三年六月辭職す、其の前二十二年四月上伊那郡高遠町士族赤羽中惠氏長女を娶り、以後自宅にありて農業に從事す、同二十五年四月伊那富村北大出區長となり、同二十八年三月伊那富村村會議員に當選す、同三十五年一月北大出消防組頭となり、同三十七年辭職す、同三十八年四月十七日伊那富村長に當選就職、同年六月伊那富村尚武會長となる、時偶々日露戰役中なりしが、戰役終了後功により勳八等白色桐葉章を授與さる爾後愛國婦人會伊那富村委員長赤十字社分區委員等となり、同四十一年病を以て辭職す、尚地方政治界に奮闘すること十有五年間中村彌六氏の爲めに盡力す、中村氏とは親交晩年に至る迄更らざし、以後健康勝れず退隱靜養しつつありしが大正十三年八月二十日遂に黄泉の客となる。嗣子林喜時君は大正十年上伊那農業學校を卒業後自宅にありて農業に從事す。

伊那富村
現住所高遠町一八八番地

## 林　豐治郎君

明治元年六月十二日伊那富村北大出に生る、同十五年折柄隣郡岡谷に發展しつつある製糸業の關聯事業に着目し、陶器繰糸鍋の不完全なるを見、隣村朝日村赤羽製陶所に入所專念之れが研究に努むる事數年後この原料に適せる粘土の研究の爲縣下に足跡普くこれが試製に築窯に粉骨の犧牲を拂ひたるも悉く失敗に歸す、此の間二十餘年企圖失敗十數度、同郡美篶村に好適なる原料を得たるは同三十八年にして、同志小松、橋本兩氏と共に同地に築窯を計画す。其着手に當りて幸に高遠町の製陶業伊藤氏も亦之に加はり氏の舊工場を買收し改築增設し名稱を丸千組と稱し同年十二月より營業開始す、然し生糸鍋製作に經驗淺く、專問的職工すら乏しき中にあり研究製作せるも失敗多く、窮乏の極米塩に事を欠くの苦境に陷りし事ありしも苦心茲に十年、此の間に同志の一人小松氏は他に去り橋本氏は遂に此の難事業の中に斃れたり。君は熱涙を拂つて奮起し更に激闘す、或は未明に出でて諏訪に走り、夕に歸りて之が製作に徹夜沒頭寢食を忘るるに至り、君が畢生を擧げて犧牲として顧みざるの慨あり熱烈なる努力は遂に空しからず初志一貫三十年の後製糸業界に絶對的信望を得て丸千式特許鍋なるもの漸く世に推稱せらるるに至れり。當時此の特殊事業を羨望して企畫したる者尠からざるも成功せるもの少く今日他に殆ど其の存在を見ざるも如何に此の業が至難中の難事たるかを推して知るべし、これは君が眞に私利私慾を超越したる犧牲的努力の賜ものと云はざるべからず。此の成功は將に地方製糸業發達史の一頁を彩るべき一大貢献と稱すべきなり。往年滋賀縣より信州へ輸入使用せられつつありし信樂燒製鍋を一蹴して、今や近縣は勿論奥州より九州朝鮮に普く使用せらるるに至り縣下の特産品たるに至れり。大正五年組織を合名會社に改め現在同社長として其の重鎭をなし、息芳人氏は父の衣鉢をうけて、廢滅の赤羽燒を再興せしむべく大正十三年十一月より赤羽窯業會社の專務として獻身奮闘生活を續けつつあり。



伊那富村

## 林　貞雄君

慶應二年十一月伊那富村に生る、初名を國太郎と稱す明治十二年下等小學を卒業し母校及中箕輪大出學校に敎鞭を取り、後高橋白山先生の塾に漢學を學び、中坪永壽氏に就き筆算を學ひ、東京學館に於て官用簿記學を卒業す、

同廿壹年町村地圖測量法を研究し、同時に地圖調製從事中、同郡富縣村有志者の希望により、字貝沼區及び美篶村字笠原區に町村地圖調製測量法實地傳習所を設け、地方の士に傳習し是が調製に勉めたり、

同廿五年十二月貞雄と改名し、父貞藏の跡を繼く、同廿七年四月、伊那富村役場書記となり、當時兵事主任として、日清戰役の事務に力む、

同卅年御料林拂下げの事あるや、其の委員として區の爲めに奔走す、

卅二年伊那稅務署雇を被命、

同卅四年四月大正二年四月の二回村會議員に當選就職す、

其の他區及村の名譽職を勤むる事、伊那富南學區會議員、伊那富村外二個村組合立伊北農商學校建築委員小學校奉安殿建築專務委員、北大出區長及同代理者三回小學校建築委員、伊那富村土木委員、公有林野整理委員、明光寺壇徒惣代三回、藥王寺信徒總代三回、神明社氏子總代、衆議員選擧、郡會議員選擧、村會議員選擧各立會人、村道改修、里道改修委員、上伊那消防聯合同盟會名譽會員、在鄕軍人分會、村青年會區青年會特別會員、憲政黨南信支部黨勢擴張委員、聯合衛生組合副長、小横川山、霧澤山分割解消委員、北大出耕地整理組合長等を務む、

同四十二年、神社整理の功勞に依り本縣神職合議所長知事大山綱昌殿より扇子壹對被下賜、

同四十五年小横川山紛擾事件解決に付同管理者より木杯壹組被贈與、

大正七年赤十字社員勸誘に盡力し、同支部長より木盃壹箇被下賜。

伊那富村

## 堀内政治君

伊那富村

## 長田晉一郎君

明治十二年六月一日上伊那郡伊那富村下辰野に生る、同卅五年三月長野縣師範學校を卒業爾來朝日伊那富西春近の三校に訓導校長たる事廿有餘年、大正十三年三月依願退職大正十四年度伊那富村下辰野區長に當選就職、大正十五年一月伊那富村長に當選現に其の職にあり。



伊那富村

## 長田庄治君

明治元年五月五日を以て生る

明治七年辰野學校に入學し同十五年二月全科卒業す同年三月同校の授業生を勤む同十六年三月辭して專ら農事に從事す同二十八年五月伊那富消防組下辰野部の消防手となり同三十年四月小頭となる同三十七年七月伊那富村產業督勵委員を囑託せらる同年十二月伊那富村北學區會議員に當選す同三十八年五月伊那富村尙武會委員に選任せらる同年十一月上伊那郡招魂社創立委員を囑託せらる同四十一年一月下辰野耕地總代に擧げらる同年二月伊那富村尋常高等小學校校舍建築委員を囑託せらる同四十四年一月三輪神社氏子總代に擧げられ今日に至る勤續十五ヶ年同年二月伊那富青年會特別會員に推薦せらる同年八月伊那富村傳染病豫防委員に擧げらる同年十一月帝國在鄕軍人會伊那富分會より特別會員に推薦せらる同年十二月下辰野消防組頭を任命せらる大正二年四月伊那富村村會議員に當選す同年九月伊那富尋常高等小學校開校紀念教育展覽會顧問を囑託せらる同三年五月照憲皇太后御大葬儀遙拜式準備委員を囑託せらる同四年十月御大典奉祝伊那富村準備委員及其副主任を囑託せらる同五年二月伊那富村外二ヶ村（小野川島）學校組合會議員に當選す同年四月衆議院議員伊那富村投票所投票立會人に選任せらる同八年五月伊那富村聯合衞生組合長に當選す同九年七月內閣より國勢調査委員を命せらる同十二年三月伊那富村縣稅戶數割調査委員を囑託せらる同十三年五月再衆議院議員選擧伊那富村投票所立會人に選任せらる同十四年一月農家組合長に擧げらる

### 褒賞及表彰

| | | |
|---|---|---|
| 上伊那消防同盟會より | 賞狀 | 壹通 |
| 下辰野消防組より | 感謝狀 | 壹通 |
| 上伊那郡農會より | 褒狀 | 壹通 |
| 伊那富村農會より | 賞狀 | 壹通 |

其他學校在鄕軍人會青年會及神社寺院等より受けたる感謝狀合せて數通

伊那富村

## 小澤修資君

伊那富村大字辰野六百參拾七番地

## 小澤林治君

萬延元年十月十五日を以て生る
明治十七年三月三日辰野村辰野學校學事掛を命ぜらる
同三十二年十月廿四日伊那富學校學務委員當選同三十二年一月伊那富消防組下辰野部長任命、同三十三年十月八日伊那富消防組を廢止し下辰野部自然消滅下辰野消防組組織せらる、
同三十三年十一月一日下辰野消防組頭任命、同三十五年下辰野總代當選、同年七月七日中央線平出驛と命名の事新聞に見へたるより同志者と計り其の筋へ請願し辰野驛と改名せられたり明治三十六年一月廿六日伊那富村會議員選擧掛り任命同三十七年二月伊那富村衛生委員當選、同三十七年四月二日伊那富村會議員當選、同四十二年辰野町總代當選、同四十二年十一月十三日伊那富小學校建築委員當選大正三年辰野町總代當選辰野町發展を期する爲め同意者と相計り辰野町を區分し町名を附し同年二月廿日披露式擧行。



伊那富村百四拾五番地

## 小澤太十君

祖先は木曾義仲配屬の士主將戰沒の後は霧澤山の溪谷に潛居し專ら屯田的住居を搆へ世の動靜を窺ひしも再擧する時を得ず遂に歸農するに至れり君は其の十代の孫なり明治十七年伊那富村宮所耕地總代に當選同十八年現地目總代に擧げられ同二十年に及ぶ二十年再度耕地總代となる同三十一年四月伊那富村會議員に當選同三十五年三度耕地總代となる四十一年二月伊那富尋常高等小學校建築委員を囑託せらる四十二年上伊那消防組同盟會特別會員に推薦せらる同年十一月帝國在鄉軍人會特別會員に推薦せらる大正二年九月伊北農蠶學校農產物品評會審査員の囑託を受く同六年伊那富村陋習矯弊委員に囑託せらる同年十一月村農會より表彰せられ木杯一箇を贈與さる同九年九月長野縣神社協會上伊那支會より數十年氏子總代勤續の故を以て木杯一組を贈與せらる同十三年一月長野縣神社協會より表彰せられ硯箱一箇を贈らる大正元年頃より歌道に志し東京田澤景忠に師事し老後を養ふ

伊那富村

## 小澤源三君

明治九年一月を以て生る
同三十六年辰野消防組小頭
同年下辰野區長代理者
大正十年伊那富村會議員に當選就職
同十一年伊那富村學務委員に當選就職
同十二年辰野區長當選就職

伊那富村辰野

## 小澤四郎君

明治七年貳月貳日を以て伊那富村辰野に生る同廿七年より染色工場を經營す同卅年壹月青年會長に擧げらる同四十三年下辰野消防組小頭に擧げられ組頭代理となる大正三年下辰野區長に擧げらる同十年伊那富村會議員に當選す同拾三年伊那富村外二箇村學校組合會議員に當選し今日に至る君四男五女あり長男幸夫氏は伊那富小學校を卒業し大正五年群馬縣立工業學校へ入學し同九年三月卒業し四月名古屋高等工業學校へ入學し同十二年三月同校卒業す同年四月愛知淑德高等女學校敎諭奉職同年十二月豊橋輜重兵第十五大隊へ一年志願兵として入營し同十四年六月名古屋輜重兵第三大隊へ見習士官として入隊す次男峯雄は伊那富學校を卒業し大正八年群馬縣立工業學校へ入學し同十三年三月卒業し家庭に在りて專ら染業に從事し居れり何れも前途有望の青年なり尙同君は染業に熱誠にして明治四十一年一府十縣聯合共進會に於て褒賞狀を授與せられ又長野縣品評會に於て賞狀を受くる事二回ありたり

伊那富村七千七百九十三番地

## 岡田米藏君

萬延元年十月二十日を以て生る
明治十九年羽塲耕地總代
同三十六年より羽塲消防組小頭（三ヶ年間）
同卅七年より伊那富村南學區會議員（四ヶ年間）
同三十八年羽塲耕地總代
同年上伊那招魂社創立委員
大正二年より伊那富村會議員（四ヶ年間）
同十年より伊那富生糸販賣組合理事
嗣子岡田萬藏陸軍歩兵上等兵にして本年度羽塲區長、羽塲消防組小頭、產業督勵委員、同統計調査委員等の職あり



伊那富村七千八百〇五番地

## 尾坂政吉君

明治十九年十二月十日を以て生る。
大正十一年上伊那郡伊那富村羽塲區長となり
大正十四年度伊那富村會議員當選現任中
其他區會議員、消防組幹部、農家組合役員、等として、村及區の爲貢献せし事尠なからず、君今や年齒將に壯にして將來益々地方社會の爲貢献する處尠なからざるべし

伊那富村

## 上嶋捨治郎君

文久三年十月十五日を以て生る
明治八年三月第六番學區中伊那富學校學區會議員、同十七年新町耕地總代に當選す、同廿七年三月伊那富村收入役に選任せられ同廿九年四月迄勤務、同廿八年四月赤十字社終身社員となる、同廿九年伊那富村尙武會員となる、同卅四年伊那富村會議員に當選、同卅六年一月退職、同卅七年四月再び伊那富村村會議員に當選同四十三年四月滿期となる、同四十一年村社諏訪神社氏子總代に當選同四十三年迄勤務、同十八年より同四十年迄引續き區役員を勤、同廿一年より廿四年迄同卅三年より卅六年迄同卅七年より同四十年迄都合三期朝日村赤羽眞金寺神戸部檀徒總代を勤む、
大正四年より同十一年迄引續き區役員となる、同六年一月新町區長に當選す、同十年十二月村社諏訪神社氏子總代に當選す、明治廿五年眞金寺山門造營に付廿五年より廿六年迄委員となる

伊那富村五千九百九十七番地

## 上島政人君

明治十三年八月六日を以て生る、明治三十九年同村上島儀治養子として入籍、明治廿四年尋常小學校卒業同年高等科へ入學、同廿八年三月同校卒業、同廿九年義熟冬期生として漢學修業、同卅三年十二月第七師團歩兵第二十六聯隊に入隊、同卅四年十二月一等卒申付けられ、同日上等兵命せらる、同卅五年十二月陸軍歩兵伍長任命、同卅六年十一月滿期除隊明治卅七年八月充員召集に應じ歩兵第二十五聯隊第六中隊附を命せらる同卅七年十月一日陸軍歩兵軍曹任命、同十一月第三軍に編入旅順要塞戰を始め奉天各戰爭に參加、同卅九年四月一日明治三十七八年戰役從軍紀章並に勳七等青色桐葉章功七級金鵄勳章を賜る、同四十一年三月伊那富村在鄕軍人會副長同四十三年七月伊那富村書記を命られ大正二年四月依願退職、明治四十四年二月十一日帝國在鄕軍人會より伊那富村分會副長囑託副長の職にあること八ヶ年明治四十四年十二月伊那富小學校同窓會長、同四十年十一月新町消防組小頭兼組頭代理、大正六年帝國在鄕軍人會伊那富分會副會長大正十三年十月伊那富村聯合衛生組合副長、大正八年一月新町消防組頭任命、同十年二月依願免職、同十四年一月新町消防組顧問囑託、大正十四年四月村會議員當選就職現に其職にあり、又明治三十六年十二月陸軍滿期の際善行證書を賜はる、大正九年六月帝國在鄕軍人會長元帥陸軍大將正二位勳一等功一級子爵川村景明閣下より正會員として善行を表彰せらる、明治四十三年長野縣警察部長より功勞証書給る、大正九年長野縣聯合消防同盟會總裁正四位勳二等赤星典太より表彰せらる、養父上島儀治君村會議員、村長の職にあること數年なりし。



伊那富村三百五十八番地

## 上島定治君

明治四年八月十七日生、明治廿六年新町區總代勤務、同三十年伊那富村書記勤務、同卅三年伊那富村新町消防組頭拜命、當組初めての組組織をなしたるが、長野縣令消防組規則發布當時なるに依り、頗る困難を極めたり、同卅六年本村會議員に當選滿期迄六年間、同卅七年本村尙武會委員幹事となり爾來五ヶ年、同四十年本村尋常小學校建築委員となる、同卅八年より公有山野整理委員となり、小横川區と境界紛爭を生じ訴訟總代となり三ヶ年に亘り、大正元年漸く示談となり、解決を告げ三組木杯を贈與せらる、引續き該山の分割問題に着手し全山の半分を區へ分割の協定をなしたるも、朝日村平出區より異議を生じ桐澤山分割問題も同上一區の不同意のため今に至るも未解決なり、明治卅八年村農會理事を勤む、同四十三年宅地價修正委員選擧人に當選、大正元年西天龍用水開鑿事業委員並に同既成同盟會委員に當選、大正五年伊那富生糸販賣組合組織せらるに際し監事となり引續き理事勤務、大正十四年十ヶ年祝賀會に紀念品を贈與せらる、同八年西天龍耕地整理組合を組織に際し評議委員に當選、引續き再選該事務に從事して大いに努力せり、同九年伊那富村長に當選就職、伊那富尋常高等小學校新築伊那富村隔離病舍改築同十年十月國勢調査執行其賞として信濃國勢調査要覽並徽章を授與せらる同十一年伊北農學校を伊北農商學校と改稱に付き努力せり

明治三十年より同四十一年迄十一年間諏訪神社氏子總代並に八幡社信徒總代等を勤務中神社整理の爲め明治卅四年より五六年中盡瘁せり

伊那富村

## 上島常十君

文久三年を以て伊那富村新町に生る、家世々手習子屋師匠を成す、父萬治郎松田黄牛先生に就き漢學を學び得る所あり、君は曾て村會議員となり明治四十四年郡會議員に擧げらる、其の他村及區の役員として盡瘁する所尠なからず、常に山野を跋渉して其の奇を探り詩賦詠吟を以て風月を樂めり、號に虚心窩、潜龍庵、秀軒、雪洲、雪山、等あり、君一度物に接し眼に觸るる時は必ず詩歌に其の感想を吐かざる事なし

拜觀宮城の詩に曰く

日出東瀛國。皇基萬古尊。雙龍騰魏闕。儀鳳躍天門。
靈囿瑞雲煥。瑤池芳樹繁。野人來拜跪。肅々仰皇恩。

又曰　東海道汽車中作

五十三亭取次移。飈車疾々恰如飛。古函關外想才戟。
大岳蓮前仰玉姿。茅屋彦差野煙淡。春花爛熳夕陽披。
景光依舊多佳境。俗唄何來慰旅羈。等の賦少なからず

寄　凧

いかのぼり浮世のさまも見へにけり
いとをよすかにかせのまに〳〵



伊那富村

## 上島寛光君

明治十五年十二月一日伊那富村に於て生る
明治廿九年三月伊那富小學校を卒業、同年四月箕輪小學校補習科へ入學、同三十年三月同校修業す
明治三十七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章を授與せらる
同四十一年二月より伊那富村役場書記勤務、同四十三年六月退職
大正七年一月新町區長代理者就職
同十年五月組合立伊北農商學校組合會議員就職
同十三年一月新町區長就職
同十四年四月伊那富村會議員に當選就職せり

伊那富村字唐木澤

## 唐澤平藏君

明治二十三年九月十六日を以て伊那富村唐木澤區に生れ、明治四十三年三月長野縣立松本中學校を卒業し、農業に志して東京帝國大學農科大學農學實科に入り、大正二年七月學業を卒へて歸鄉し、地方の農業の開發に努めんとせしも、時恰も自村に組合立伊北農商學校の設立せらるゝあり、大正三年一月同校の教授を囑託せられ、同年六月教諭に任せられ在職六ヶ年にして大正八年三月職を辞し次で同校の常設委員に推薦せられ開善發達を計り同十三年再選せられて今日に至る、尚同九年七月第一回國勢調査員、同十年六月産業統計調査員、同十二年村農會顧問同十三年六月主要食量農産物改良增殖督勵委員等の囑託を受けつつ專ら農蠶業に從事しつつあり。

伊那富村八百二十四番地

## 加嶋覺太郎君

安政五年八月十日を以て生る
明治十八年一月伊那富村助役就職
同三十年三月辞職
同三十四年四月伊那富村會議員に當選
同三十七年三月滿期退職
同四十四年十一月今木消防組頭拜命
大正二年十月辞職
同二年四月伊那富村會議員に當選
大正六年三月滿期退職
尙外に唐木澤區長　三回(一回　二ヶ年宛)
香住寺檀徒總代　三回(一回　四ヶ年宛)
七藏寺信徒總代　三回(一回　四ヶ年宛)等勤務せり

伊那富村

## 加嶋杢治君

明治八年七月を以て生る
明治三十六年產業視察の爲渡米「シャートルサンフランシスコ」等を視察して大いに得る所あり
同四十四年伊那富村役場書記となり
同四十五年收入役勤務
同年赤十字社分區委員
大正六年今木消防組々頭拜命
同十年村會議員に當選滿期迄勤務
同十三年四月伊那富村外二ヶ村組合會議員當選、其の他唐木澤區長、小學校建築委員會計檢查委員、農會役員衞生副長、青年會、軍人會特別會員、等に推選せらる、尙氏子總代香住寺檀徒總代七藏寺信徒總代等を勤務
大正十四年第二回國勢調查委員を囑託せらる



伊那富村大字辰野八百八十七番地

## 吉江章雄君

明治十七年十月八日を以て生る
明治三十九年四月廿一日伊那富村書記に就職大正四年迄勤續
大正四年八月五日伊那富村助役(有給)に當選就職
同八年八月五日伊那富村助役滿期退職
同四年八月伊那富村農會副會長に當選就職
同八年八月伊那富村農會副會長辞職
同十四年一月伊那富村上辰野區長に當選現任に至る
同十四年四月二日伊那富村會議員に當選現在に至る

伊那富村辰野

## 吉江良夫君

辰野消防組頭、辰野區長、其他公務に從事する事多く、大正二年村會議員となり、學校建築等に盡力する所あり又多年上伊那銀行重役となり現に其の職にあり

伊那富村七百四十番地

## 故 吉江代三郎君

安政三年五月廿三日を以て生る
明治二十二年四月より同二拾五年三月迄伊那富村會議員勤務
明治三十二年十月上伊那郡會議員當選同三十四年五月辞職
同三十七年四月より同四十二年五月迄伊那富村會議員勤務
大正三年上辰野區長勤務
圖子、清君は大正十三年在郷軍人分會長となり、同十四年四月伊那富村會議員に當選現職中
又辰野共同製糸社長たり

伊那富村

## 武井豊秋君



伊那富村

## 竹入磯吉君

明治九年一月十日を以て伊那富村字小横川に生る、小學校を卒業の後は專ら農蠶の業に從事す、同四十一年墓地管理者となり大正五年迄勤務、四十三年衛生委員となり二期間繼續し、四十五年小横川區協議員となり以來年々再選以て今日に至る、大正四年區長となり同五年副區長となり、六年有志と共に卒先して小横川養蠶組合を組織し、組合長として專ら其の事務に盡瘁す、同年四月村會議員に當選四箇年間其職にあり、十年池上寺檀徒總代となり任期三年の後再選せらる、十一年縣税資料調査委員に任命せられ爾後相次ぐ、十二年小横山川整理事業の開始するや山係委員となり其の他村及區の委員會勤務すること尠からず。

伊那富村

故

## 竹入善治郎君

安政元年九月三日朝日村樋口仁科家に生れ、幼にして竹入家に養はれ農を以つて業とす、長じて戸長役場筆生を命ぜられ、明治二十二年二月伊那富村々會議員に當選す、同二十四年三月助役に當選就職す、明治二十四年縣道三州街道改修に際し、長野縣より敷地地所評價人に選任さる、同四十二三年の交組合立伊北農蠶學校設置の議起るや極力奔走設立の爲め努力し新設に際しては建築委員に選任され續て常設委員として校務の爲め盡瘁する所あり、伊那富小學校學務委員及香住寺檀徒總代、消防組役員、伊那富聯合衛生副組合長等勤務、其他區長たる事數回に及ぶ、又今村神社氏子總代在職十餘年其の間神社改築並に昇格問題等に盡力其の功により上伊那郡長より木杯一組を贈與表彰さる、晩年病の爲め健康勝れず大正十四年六月二日死去す享年七十二歳なりし

伊那富村

## 中條常太郎君

明治七年一月十一日を以て生る
明治三十三年宮所消防組小頭任命、同四十一年十二月二十日功勞證書附與せらる、同四十四年六月組頭任命
大正三年二月依願職を免す
明治四十二年日本赤十字社正社員となる
同四十四年伊那富村青年會特別會員に推薦せらる
同年十一月帝國在鄕軍人會伊那富分會特別會員に推薦
同四十五年度宮所耕地總代大正四年度後期及大正十一年度宮所區長
大正七年五月伊那富村學務委員に當選同十一年四月滿期退職
大正十年七月伊那富村聯合衞生組合副長就職同十四年五月滿期退職
大正十二年三月伊那富村農會總代當選現に其職にあり
大正十三年長野縣にて宮所區の保健調査を行ふに當り調査委員を囑託せらる
同十四年四月伊那富村會議員に當選し現に其職にあり

伊那富村

## 中條歌造君



伊那富村五百十一番地

## 故 村上傳吾朗君

弘化二年十一月三十日出生大正八年八月二十三日死去
明治五年一月舊北大出村名主役拜命
同九年三月舊筑摩縣下問會議員被推選
同十二年六月伊那富村戶長拜命
同十五年五月舊筑摩縣再置請願の儀に付き南部七郡總代として出京其の筋へ出願
同十五年八月同十九年八月、同二十二年四月の三回、伊那富村會議員當選
明治十六年二月、同十八年四月、同十九年十一月の三回、上伊那郡町村聯合會議員當選
明治十五年十一月、同十九年一月、同二十三年二月の三回、長野縣會議員當選
明治十八年二月、同十九年三月、同二十一年三月の三回、長野縣會常置委員當選
明治二十四年五月、上伊那郡會議員當選
同二十四年七月、上伊那郡會議長代理者當選

伊那富村五百三番地

## 村上正清君

明治十年一月十二日を以て生る
明治四十年十二月二十四日伊那富村南學區會議員に當選
同四十三年四月二日伊那富村々會議員に當選
大正八年十月八日本郡々會議員に當選
大正十四年一月二十日北大出消防組頭に就職現在其の職にあり
同年七月八日伊那富小學校教育基本財產中へ寄附
大正九年國勢調査員となる
其他西天龍耕地整理組合評議員、及北大出區長等公共の爲めに盡力する所尠からず

伊那富村大出區

## 村上永一君

明治十一年七月八日を以て生る
上伊那農學校別科卒業
明治三十五年一月より同四十年一月迄消防手、小頭、長野縣警察部長より功勞賞拜授
明治三十七年當地方養蠶業の振はさるを見て、郡蠶業技手と共に上伊那郡に養蠶組合設立の必要を議し、養蠶組合を組織す、それより大正二年迄繼續し其間技術員を聘し蠶業の發達を圖る
大正十一年五月伊那富村學務委員となり現在常設員たり
同十四年二月上伊那郡小作調停委員任命
同年一月北大出區々長當選
同年四月伊那富村會議員當選
同年伊那富生糸販賣組合監事となる
平素蠶の理想とする所は地方の農村教育の進歩を謀り且金融機關を設け斯業の發達に資せんと常に貢献しつつありと云ふ、家業は殆んど養蠶專業なり

伊那富村八七一九番地

## 野澤貞治君

明治十一年十二月二十五日を以て生る
大正八年一月北大出區長當選
同十年四月伊那富村村會議員當選
同十一年十月四日北大出耕地整理組合長に就職
同十二年十一月七日伊那富村助役に就職現に其の職にあり



伊那富村甲五百十八番地

## 野澤虎之助君

慶應元年五月十一日を以て生る
明治二十二年三月本村役場書記に選任せらる
同二十四年一月北大出耕地總代に當選
同二十五年三月本村村會議員に當選
同二十七年十月伊那富村外二箇村學校組合會議員に當選
同廿九年三月伊那富村朝日村組合會議員に當選
同三十二年八月本村助役に當選
同三十二年八月日本赤十字社上伊那郡伊那富村分區委員を嘱せらる
同三十三年十月北大出消防組頭を命せらる
同四十三年九月本村傳染病豫防委員に當選
同年十一月本村尋常高等小學校建築委員に當選
明治廿七八年戰役の際海軍へ金十一圓献納木盃一個下賜

伊那富村八千七百二十二番地

## 野澤吉太郎君

慶應三年十二月一日を以て生る
明治四十年一月六日村社神明神社氏子總代就職
同四十一年中村社神明神社神庫階段玉垣工事委員勤務
同四十二年十二月中長野神職合議所長より白扇一對を賞與せらる
同四十四年一月六日再選重任大正三年一月滿期退職
大正二年四月伊那富村會議員當選滿期迄勤務
同五年二月伊那富村外二箇村伊北農蠶學校組合會議員に當選滿期迄勤務
同二年明光寺檀徒總代勤務
同三年中藥王寺信徒總代勤務中庫裡再建事業に勤めたり

伊那富村

## 野澤軍治君

明治六年四月伊那富村北大出に生る。十二年春同村羽北學校へ入學十八年十月高等小學全科を卒業十九年より羽北學校にて授業生を勤め獨學志を立て廿三年長野縣師範學校に入り廿七年卒業北安曇郡池田學校訓導に任す。廿九年本郡中箕輪高等小學校に轉し卅五年五月初めて同校長に任す勤續八年校の内外及郡教育の爲め劃策盡瘁せり。卅七年自村伊那富に轉し在職七年村青年會の統一婦人會の創立等に盡力し學校改築に關して村當局を輔けて校地を確定し校舍の設計を成したるが偶校地につき村内に紛擾起り村理事者皆辞職するや則ち四十四年出で諏訪郡落合學校に轉す。大正五年同窓の友たる時の郡視學の懇囑ありて上水内郡に入り七二會安茂里三水の各校に奉職せしが頃者漸く健康を害したるを家事の都合を以て十四年四月遂に退職せり。師範卒業より卅有餘年終始初等教育界に止まりて献身努力し奉職校數七育英せる男女數實に萬餘を算し今日已に社會上相當の地位を占むるもの多しといふ

伊那富村

## 野澤廣十君

慶應三年五月十日伊那富村北大出に生る、代々農にして舊家なり、明治三十四年伊那富村南學區會議員となり、同卅六年同村會議員となり、同卅八年産業督勵委員を命ぜらる、其他伊那富村聯合衛生組合副長、及北大出區長、氏子總代、檀徒總代、公有林野整理委員を勤む

聯芳錄發刊を喜びて

あしき名にあらて殘れる名なりせば
いかに小さき名にはあれども
後の世に殘れる名こそ尊けれ
遠きみおやのよき名見るたび
咲きみちて居れとも人に訪はれすは
さひしかりけり山櫻花



伊那富村

## 熊谷海老七君

元治元年十月を以て生る長して同村今宮學校に學び後商業に從事せり
明治廿六年伊那富村收入役勤務又同村北學區會議員當選
明治卅九年及同四十年今村耕地總代を大正五年區長勤務
同卅五年より今村消防組頭勤務
大正二年村會議員に當選滿期迄勤務
同八年十月より同十三年郡制廢止に至る迄郡會議員勤務其の間副議長たり
大正元年より村社氏子總代勤務同十一年郡長より表彰せらる
同十二年より檀徒總代勤務

伊那富村四百五十九番地

## 熊谷喜太郎君

元治元年二月一日を以て生る
明治廿六年一月耕地總代に當選
同廿七年伊那富村役場書記に選任せらる
同卅年學務委員に當選
同卅四年村會議員に當選
同卅八年十一月上伊那招魂社創立委員に推選せらる
同四十年四月一級村會議員に當選
同四十二年四月上伊那郡伊那富村聯合衛生組合副長に當選
明治卅八年村尚武會員となり
大正十一年西天龍耕地整理組合員となる
其他神社氏子總代寺院檀徒總代山野總代等として盡力したる事尠からず

伊那富村辰野六六六番地

## 栗林幸治郎君

慶應二年二月伊那富村に生る、長して當時早くも製糸業の有望なるに着眼し明治二十五年辰野に製糸事業を起したり、之れ氏が實業界に航する解纜たりし、現丸共辰野製糸所舊工場は實に同氏と朝日村有賀兵衛門氏との共同設立によるものなり、斯くして蠶業界の爲めに十年一日の如く奮闘を續けたり、卅六年中央線鐵道工事起るや辰野驛の發展を計る爲め同驛より三州街道宮木に達する縣道を開き岡谷街道平出に通ずる里道を縣道に編入する等の事に盡力し、卅九年中央線の開通と同時に辰野驛に運送業を營む者なきを憂ひ栗林運送店を開設し續いて内國通運株式會社の取引店となゝ、辰野驛は上下伊那の唯一の驛にして兩郡の咽喉地に位し兩郡の物資は悉く同驛を通過する事となり伊那電氣鐵道の布設せらるるや省線と社線貨物連絡の爲めに寢食を忘れて盡瘁し兩郡貨物運輸上に貢献する所多大なりしは人の知る所なり、氏の經歷中特に大書すべきは現辰野驛は開通當時平出驛と命名せられたるを明治卅八年九月自ら進んで上京時の逓信大臣大浦氏に陳情する所あり辰野驛と改名したる如き氏の努力に依るもの多きに居ると云ふ、大正八年八月鐵道省にて公認運送制度の實施せらるるや鐵道省第一次公認運送業者に選定せられ、同年九月甲府運輸事務所管内公認運送組合の組織せらるるや評議員に選ばれ副會長の榮職に推薦せらる、續いて名古屋鐵道局公認運送店聯合會理事となり、中央會代議員帝國運送協會代議員となり店運月を逐ふて益々發展し斯業界に重きをなすに至れり、其の間明治三十一年四月及大正十年四月村會議員に當選し又明治三十六年十月郡會議員となり郡政に參與したる事あり、平出局電話組合の創立に努力し組合長たる事數年地方の重鎮として幾多の銀行會社に關係し地方産業の發展を計り現に辰野劇場の社長たり、實に同氏の不屈不撓の精神こそあらゆる困難なる生活境遇の變化に堪へ氏をして今日あらしめたるものなりと云ふべし。



伊那富村甲六百五十二番地

## 矢ケ崎藤吉君

明治二年六月十二日を以て生る、同三十年下辰野耕地總代を勤務、同三十二年七月伊那富村收入役に就職、同三十七年六月上伊那郡尚武會伊那富支會委員に當選同年十二月伊那富村助役に就職、同三十八年二月日本赤十字社正社員に列す、同年五月上伊那郡農會伊那富村地方事務員に選任、同三十九年九月帝國軍人後援會長野支會分會副長を囑託、同四十年一月下辰野消防組々頭を命ず、同四十一年六月大日本蠶絲會信濃支會上伊那委員を囑託、同四十三年七月宅地々價修正調査委員に當選、大正二年二月伊北農蠶學校組合常設委員に當選、同六年四月伊那富村會議員に當選、同九年四月伊北農商學校組合會議員に當選、同年十月國勢調査委員に任命、同十三年五月伊那富村聯合衞生組合長に當選、明治三十九年四月賞勳局より勳八等瑞寶章を授與同四十年十二月長野縣警務長より功勞証書授與

伊那富村二百五十六番地

## 矢嶋十吉君

慶應二年十月二十日を以て生る

先代矢島平藏矢島吉右衛門と隔代に襲名し來る、世々宮木村名主役を勤むる事多年父新治に至り明治十六年六月十二日附を以て驛遞局より宮木郵便局四等取扱役を仰付らる、同廿六年父退隱に付相續す。同廿八年一月より同廿九年十二月迄宮木耕地總代勤務。明治卅一年四月伊那富村會議員に當選。明治卅三年十二月伊那富村助役に當選就職。明治卅四年七月伊那富村長に當選同八月三日認可就職。同年十月十五日日本赤十字社伊那富分區委員を囑托せらる。同卅六年六月廿五日事業上の盡力により長野支部長より謝狀及木杯一個を贈らる。同卅七年六月廿五日社業擴張の盡力により長野支部長より謝狀を贈らる。同卅七年八月二十二日村長退職に付き伊那富村より慰勞々して謝狀及銀杯一個を贈らる。明治卅七年十月上伊那郡農會評議員に擧げられ卅九年一月退職。同卅九年六月一日より日本赤十字社長より明治卅七八年戰役救護事業の盡力により謝狀及木杯一個を贈らる。明治四十四年二月上伊那北部青年聯合會より顧問を囑託せらる。同四十四年十一月帝國在鄕軍人會伊那富分會より名譽會員に推薦せらる。大正十一年六月伊那富信用販賣利用組合理事に就任大正十四年再選現に其の職にあり

伊那富村大字伊那富百八十五番地

## 神職 矢嶋謙一郎君

万延元年七月十五日を以て生る

矢島家は當地開創以來世襲の神職にして現代に及ぶ、君は明治十三年四月より同十九年十二月迄小學校教員の職に從事し、同廿年一月より伊那富村長野村戸長役場筆生を命ぜられ、廿二年四月に至る同月町村制實施により伊那富村書記と改稱選任せられ、同廿七年十二月十四日に至る、同月十五日伊那富村長に就職同卅年三月辭職、此の間伊那富村外二箇村學校組合長及大日本赤十字社分區委員尙武會長等を兼務す、明治廿八年七月卅一日日本赤十字社正社員に列せられ終身社員となる、村長在職中明治廿七八年事件の勞により賞勳局より木盃一組を賜はる、明治卅四年二月四日伊那富村宮木村社諏訪神社外六社無格社十四社々掌に補せられ現に其の職に在職中、明治四十年四月三日長野縣神職合議所長大山綱昌氏より上伊那支所副長を命せらる、明治四十年五月十三日より大正元年八月十五日迄上伊那招魂社社掌勤務、神職就任以來上伊那神職合議所幹事及長野縣神職合議所神社協會代議員及議員補等連年勤務、明治四十年八月十九日神苑會頭男爵花房義質氏より長野縣上伊那郡委員を囑託せらる、明治四十一年六月廿日長野縣神職合議所長正四位大山綱昌氏より一府十縣聯合神職大會準備委員を囑託せらる、大正四年十一月二十日神職恪勤の廉により本縣より表彰せられ木盃一組を贈らる

伊那富村二五六番地

## 矢島久治郎君

萬延元年五月二日を以て生る
明治十五年十月長野縣師範學校卒業
同十六年一月廿四日上伊那郡伊那富小學校訓導に任せらる
同十七年四月廿六日諏訪郡中野村至誠學校訓導に任命
同十八年六月五日上伊那郡樋口村愛晷學校訓導に任せらる
同十九年四月一日上伊那郡東箕輪村小河内學校長兼訓導に任せらる
同廿一年三月廿八日同郡伊那富學校訓導に任せらる
同廿二年二月十五日伊那富學校長兼訓導に任せらる
同年十月九日小學校教員地方免許狀下附
同廿七年十月九日小學校本科正教員免許狀下附
同廿八年四月十二日上伊那郡西春近村春近尋常小學校訓導兼校長に任せらる
同廿九年十二月廿二日同郡小野尋常高等小學校訓導兼校長に任せらる
同卅三年一月卅一日願により免職
同卅四年十二月廿二日伊那富村北學區會議員に當選
同卅七年十二月廿一日學務會議員に再選
同四十二年一月五日伊那富消防組頭を命せらる
同四十三年四月二日伊那富村會議員に當選大正二年四月再選
同年八月卅日日本赤十字社伊那富村分區收入委員囑託
大正五年二月廿七日伊那富村外二ヶ村學校組合議員に當選
同六年三月一日伊那富村陋習矯弊委員を囑託せらる
同十一年一月七日伊那富村長に當選就職
同十二年四月五日伊那富村農會長に當選就職
同十三年保健衛生調査委員を囑託せらる
同十五年一月十五日伊那富村長任期滿期退職
受賞　明治廿年八月平出學校新築費金十圓寄附に附木盃一個下賜せらる、同卅六年一月小野尋常小學校備品費金員寄附に付木盃一個下賜せらる、同四十年四月伊那富村警察分署へ電話架設費へ金員寄附に付木盃一個下賜せらる同四十年六月伊那富警察分署建築費金員寄付に付木盃一個下賜せらる、嗜好は讀書和歌俳諧等



上伊那郡伊那富村宮木
宮木郵便局長

## 矢島金吾君

同郡朝日村平出區に生れ、伊那富村矢島家を嗣く
同區の公共事務に盡し區長及區長代理者其他名譽職を務むる事多く
大正六年四年伊那富村々會議員に當選し滿期迄勤務
明治四十三年以來宮木郵便局長を拜命し現に其職にありて大に奮闘しつゝあり
大正八年伊那富村外二ヶ村組合會議員に當選せり
氏が養父矢島善八氏は同村屈指の人にして舊戸長及町村制實施以來同村々長の職に在る事多年、村民より功勞感謝狀三ッ組盃等を贈呈せられ
又明治三十二年縣會議員に當選したる等、地方に貢献したる事尠からざりしが之れが資料を得ざりしを遺憾とす

伊那富村四百三十八番地

## 山崎藤一郎君

明治七年七月三十一日を以て生る、明治廿二年四月伊那富小學校授業生任命、同廿八年三月要塞砲兵第一聯隊へ入隊、同卅二年四月本村農會評議員に當選、同卅四年一月羽塲耕地總代當選、同卅五年一月本村小學校學務委員當選、同卅五年六月長野縣巡査拜命十二月病氣退職、同卅六年一月氏子總代當選、同卅六年一月羽塲消防組頭任命、同卅七年四月本村會議員當選、同卅七年五月要塞砲兵聯隊へ充員應召同八月第三軍第二機關砲隊へ編入出征、同卅八年十二月本村南小學校代用教員任命、同四十年四月本村軍人會評議員當選、同年四月大日本消防協會長野縣地方委員任命、同四十二年四月朝日小學校へ轉勤、同四十三年四月伊那富村會議員當選、大正元年一月羽塲消防組頭任命、同二年二月伊北農商學校常役委員當選、同年九月日本赤十字社伊那富分區收入委員任命、同三年四月本村土地調査委員任命、同年一月檀徒總代當選、大正四年九月日本赤十字社伊那富村補助分區委員任命、同年四月本村書記任命、同六年五月本村聯合衞生組合副長當選、同九年七月國勢調査委員任命、大正十年五月本村聯合衞生組合副長當選、同十四年五月同上、先代父金四郎君明治初年より三十年に至る諸役を勤め目下八十二歳にして健全なり

伊那富村大字辰野六百十七番地

## 增澤宇太郎君

明治三年十月十二日を以て生る、明治廿八年伊那富村書記に選任就職同三十年四月辞職、同三十四年伊那富村收入役に選任就職同卅八年四月滿期退職（伊那富村收入役滿期退職の嚆矢たり）、同三十九年十一月辰野消防組々頭に任命同四十二年十二月辞職、同四十三年一月伊那富村會議員補欠當選大正二年三月滿期退職、明治四十五年七月乙種農學校建築協議委員當選、同四十五年三月伊那富村外二ヶ村組合立乙種農學校建築委員當選大正二年十二月自然解終、大正六年二月伊那富村外二ヶ村組合學校常設委員當選、大正九年三月滿期退職、大正八年十月廿九日伊那富名譽職助役に當選就職、同十二年十月二十八日滿期退職、其他消防組小頭學務委員檀徒總代氏子總代等勤務する事數次なり、明治三十九年十一月長野縣警務長より功勞證書を下附せられ、大正十年第一回國勢調査紀念章を賞勳局より下附せらる大正十二年十二月伊那富村より助役滿期慰勞の爲金時計代として金貳百圓給與せらる



伊那富村

## 增澤利喜松君

文久二年四月を以て生る

明治三十一年地價修正委員囑託

同廿七年小學校督勵委員囑託

同廿七年尙武會委員囑託

同廿九年上辰野耕地總代當選

同三十年伊那富村學務委員當選

同卅一年七藏寺信徒總代再選

同年四月村會議員選擧掛

明治卅四年十二月北學區會議員選擧掛及議員に當選

同卅五年辰野消防小頭任命

大正二年四月伊那富村會議員當選

大正五年伊那富村外二ヶ村組合會議員當選

同九年上辰野區長當選

伊那富村

## 增澤俊畝君

君は新進の畫家なるが、其經歷大要を自ら語られし所を記すれば、「小生にも人並に履歷を出せと云はれたが公衆の前に發表する程の立派な經歷を持たぬから躊躇してゐたが、自分は明治三十年十一月故帝室技藝員荒木寛畝翁の門に入り畫を學んだが、常に十畝先生と机を並べて居たので先生の薫陶を受けたることが少なからすであつた、三十二年日本美術協會の展覽會に雨中鷄の圖を出品して褒狀を受けたるを初として斯んな事を何年か繰り返へして居つた、其頃協會は故威仁親王殿下を總裁に戴き會頭には佐野常民土方久元兩伯等であつた、其後第五回内國勸業博覽會にも出品し幸に入選したが、家庭の事情で出生地辰野に歸へり小學校教員の末席に列して居たが、其の間に東都の同窓友人は何れも上達せられたので夫に感じ又元の畫筆を執りつつあるが、今後如何なる方針で研究の歩を進めんかに迷ふて居るが自然は良師であると信じて居ります」云々

伊那富村

## 松尾利忠太君

明治十一年九月を以て生る、長じて片倉組に入り同組の爲に健闘せられ、左記賞狀に依つて君の人物を知るに足る

長野縣諏訪郡川岸村
片倉組事務所購繭課長
松尾利忠太

明治卅一年片倉組に入り購繭の業に從事し、全國各地を歷巡し蠶業の分布を審かにし、以て業務上の便に供し、傍ら地方の蠶業の改善發達に資せる所少なからず擧げられて購繭課長となるや、誠實以て部下を率ひ、鋭意購繭事務の改善に盡瘁す、其成績實に見るべきものあり、仍て片倉功績表彰規則に據り第二種功績章を授與し、以て其の功績を表彰す

大正八年四月五日

大日本蠶絲會總裁
大勳位功二級　載仁親王

尙君は大正八年十一月原料課長となり、大正九年片倉製絲紡績株式會社創立せらるるや理事に選任せられたり。



伊那富村

## 松田政治郎君

君は松田黄牛先生（坂本天山の高弟）五代の孫にして父は鵠治征盛と稱す、其の嫡子にして明治四年三月廿八日伊那富村大字伊那富字新町に生る、學齡の至ると共に中伊那富學校に入り初等中等高等科の學科を修め其後冬期間有賀龍東先生の塾に入り、又筑摩郡内田村牛伏寺にて鮎澤治郎兵衛先生の塾に遊べり、家世々農たるを以て其の業務に努めたるが、明治二十四年徴募に應じて近衛歩兵第三聯隊第三中隊に入營し、以來三ケ年間現役を終へ期滿ちて鄕里に歸へらんとするや、適々征清の役起り現役延期となり、支那本國及び臺灣の各所に轉戰し明治二十八年十二月鄕里に歸へり農業に從事せり、同三十五年十一月二十八日新町消防組小頭を命せらる、同三十七年日露兩國の間不和を生じ遂に戰爭の止むなきに至り、又時に後備兵役一ケ月間にして國民兵役たらんとするに際し同年二月充員召集の令至り、近衛歩兵第三聯隊第三中隊に編入せられ、後又近衛後備歩兵第一聯隊第五中隊に轉じ常陸丸の遭難のことありしより其の補充員として征露の途に上り、各所に轉戰し砂河の開戰に當り、歪頭山攻擊に際し負傷し遂に兵役免除となり、勳八等白色桐葉章を賜はり恩給を給與せらるが明治四十年十二月二十五日長野縣警務長より功勞證附與せらる、同四十一年十一月四日上伊那消防組同盟會名譽會員に推薦せらる、同年十一月十六日新町消防組頭を命せらる、同四十三年新町區長に撰任せられ、同四十四年上伊那北部青年聯合會顧問を囑託せらる、大正二年九月二十一日伊那富學校開校紀念敎育展覽會顧問に囑託せらる、同二年伊那富村會議員當選、大正五年有限責任伊那富信用販賣利用組合の創立せらるるや、理事となり次で同組合長に推され生糸販賣組合聯合會龍水社理事に選任せられたり

伊那富村千三百二十二番地

## 松尾正壽君

明治十四年七月廿八日を以て生る
大正九年前戸主死亡に付き家督相續す
同十年一月衞生組合長に當選
同十年四月伊那富村會議員に當選
同十一年九月村社三輪神社改築委員當選
同十三年四月伊那富村外二ヶ村學校組合會議員當選
同十三年十二月小作調停委員囑託せらる
同十四年三月伊那富小學校學務委員に當選
同十四年伊北農商學校兩中体操場建築委員當選
同十四年十二月大正十五年度小作調停委員に囑託
同十五年一月伊那富村上辰野區長當選
大正十三年長野縣消防聯合會より表彰せらる

伊那富村

## 松田龜十君

明治九年一月一日伊那富村字新町區に生る、小學校を卒業し又朝日村字樋口區有賀先生の門に學び後家業に力む、大正四年同志と相計り產業組合法による生糸販賣組合を創立し理事となり組合長となる、大正十年村會議員に當選、同十一年亦有志數名と共に保證責任伊那富購買組合を創立し組合長に推さる、同年西天龍耕地整理組合會議員となる、同十三年伊北農商學校組合會議員となる、現在生糸販賣組合の理事及購買組合組合長の職にあり



伊那富村三百四十八番地

## 松田岩太郎君

慶應二年四月廿日を以て生る
明治廿八年より今日迄泉水山長久寺檀徒總代勤務
大正八年より長久寺本堂建築委員會計を囑託せられ、
大正十一年十一月廿六日終了
明治三十一年區長勤務
同三十二年より三ヶ年間諏訪神社氏子總代勤務
同三十九年村社社務所建築委員、氏子總代及建築專務委員勤務
大正二年伊那富村々會議員に當選し、滿期迄勤務
同四年伊那富生糸信用販賣組合創立委員となり創立に盡力今年迄理事及監事たり
明治卅三年新町消防組を組織さるるや消防小頭となり勤務數年なりし

伊那富村

## 福澤久雄君

明治十五年七月十二日を以て生る
大正九年三月伊那富消防組頭に任命せらる、就職三年
同十一年十二月退職
同十三年一月宮木區長に當選同十四年一月退職
大正十四年四月伊那富村會議員となり、現に其の職にあり
父福島倉藏君は安政元年生にして嘗て伊那富尋常高等小學校に學務委員となり、又學區會議員となり、明治三十九年宮木區長となる、等有爲の士なりしが、壯年病魔に犯され早世せられたり

伊那富村四七六番地

## 松井喜代太郎君

明治三年三月三日を以て生る
明治三十七年二月より七月迄伊那富村役場書記勤務
大正四年十月五日上伊那郡會議員當選同月廿五日郡參事會員補充員當選
同　二　年　羽　塲　區　長
同　十　四　年　區　長　代　理
其他村及區の公務に鞅掌したること尠からざれども、其の資料を得ざりしを遺憾とす

伊那富村四百〇四番地字羽塲區

## 福島文十郎君

萬延元年六月二十六日を以て生る
明治十六年度眞福寺檀徒總代を勤む
同十七年度耕地總代を勤む
同二十二年二十三年伊那富村役塲書記を勤む
同二十四年以降拾有餘年間山論總代及び山係りとなり現今に至る迄勤務
同二十五年より同三十一年迄滿六年間本村會議員勤務
同二十八年本村臨時土木委員を勤む
同年伊那富、小野、川島、三ヶ村學校組合會議員を勤む
同二十九年伊那富、朝日、兩村山林原野組合會議員を勤む
同三十年より同三十二年に至る迄本村助役勤務
因に本村町村制施行以來村長助役は名譽職なりしが明治二十九年度に至り各種の事情より村の平和破れたる爲めに有給村長海野幸績君を雇聘し有給村長俸給支出多額に付、名譽助役は無報酬の決議を以て當選前記の年限中無報酬にて村治に貢献する所ありたり
伊那電氣鐵道羽塲區委員を數年間勤む
大正八年より同十一年度に至る滿三ヶ年村社手長神社氏子總代を勤務
同十四年より現今眞福寺檀徒總代を勤務
前記の外各種の委員等として盡力したる事尠からず家計豊かなるに非らざれ共、村及び區に對し貢献中明治二十五年度頃實弟由一郎氏を東京に遊學せしめ醫師に養成大正元年度に於て實子市左衛門氏を東京に於て醫師に養成す兩者共現在醫術開業社會に貢献し居れり

伊那富村

## 福嶋嘉藤治君

明治三十六年一月羽塲耕地總代
大正六年村會議員
同七年消防組頭
大正　年區長
氏子總代
同十四年檀徒總代
其他公共に盡瘁せる所尠からず

伊那富村大字辰野七五四番地

## 小林龜重君

慶應二年十一月一日を以て生る
明治廿二年八月朝日尋常小學校訓導拜命
同廿三年十月中箕輪小學校へ轉任
同廿五年五月下諏訪小學校へ轉任
同廿七年四月有賀尋常高等小學校へ轉任
同廿九年四月岡谷尋常高等小學校へ轉任
同卅二年四月伊那富小學校へ轉任
同四十五年三月退職
同年五月九日附退隱料證書を下附せらる
大正二年一月上辰野區長拜命
同四年四月小學校學務委員常務に任せらる
同六年一月辰野消防組頭拜命
同年四月村會議員に當選滿期迄勤務



伊那富村

## 小松庄之助君

明治九年三月六日を以て生る
明治二十三年三月上伊那高等小學校卒業
同年四月より同廿五年三月迄伊那富小學校授業生勤務
同三十二年一月伊那富村役塲書記に選任
同三十八年三月同村產業督勵委員囑託
同年四月より同四十二年三月迄伊那富村收入役勤務
同四十二年一月より同年四月迄日本赤十字社伊那富村補助分區委員勤務
同四十三年中同村宮木區長當選
大正二年四月より同六年三月迄同村會議員勤務
同六年三月同村陋習矯弊委員囑託
同七年五月より同十一年四月迄同村學務委員勤務
同十年二月篤農者として同村農會より表彰せらる
同十四年六月同村聯合衞生組合副長當選

伊那富村四百二十四番地

## 小松米治君

明治二十年十一月十八日を以て生る
大正七年區長代理
同　八　年　區　長
同十年より氏子總代
同十一年五月より伊那富村收入役
同十四年一月より消防組頭
其他村及區等公共の事業に盡したる所少からず

伊那富村小横川區

## 赤羽憲之助君

伊那富村役場書記を勤め、又其區に於て小横川山霧澤山解消委員公有林野整理委員衛生副組合長學務委員其他公共事務に盡瘁

大正十年四月村會議員となり又伊那富村外二ヶ村組合會議員となる前途尚ほ多望なるものあり

父憲壽氏も村及區に大いに勤め村會議員及學區會議員等を勤め同村知名の士なりし



伊那富村百十四番地

## 赤羽伊勢十君

安政六年九月三日を以て生る、明治二十二年耕地總代同三十一年より同三十八年迄消防組小頭、同三十六年耕地總代、同四十一年二月廿六日付伊那富尋常等小學校々舍改築建築委員を囑託さる、大正二年四月伊那富村會議員當選、同二年明治天皇御一年祭伊那富村遙拜式準備委員を囑託さる、同二年羽北分教場改築建築委員を囑託さる、同四年十一月二日付御大典奉祝伊那富村準備委員委員囑託さる、同五年伊那富村他二ヶ村學校組合會議員當選、同六年三月一日付伊那富村陋習矯弊委員囑託さる、同十一年四月二十日付縣税戸數割資料調査委員囑託さる、池上寺檀徒總代二ヶ年乃至三ヶ年宛四回、神社氏子總代二ヶ年宛二回、明治二十九年十一月二十日付三州街道改修に付き土地寄附縣知事より表彰さる、大正十一年二月十一日付村農會より憑農家表彰さる

伊那富村千六百十三番地

勳七等功七級

## 赤羽松一君

明治十三年十二月廿四日を以て生る

同三十三年十二月一日徴兵として近衛野戰砲兵聯隊へ入營

同三十七年二月十三日動員召集に應集近衛野戰砲兵聯隊第三中隊へ編入す

同年三月十四日宇品港出帆出征す

同四十年六月三日砲兵曹長に任ず

同四十三年三月十五日より運送業に從事す

同四十四年帝國在鄕軍人會伊那富村分會長就職す

大正九年第一回の國勢調査員に任命

大正十四年四月村會議員に當選し現に其の職にあり

伊那富村

## 宮澤常藏君

明治十四年十一月二十五日を以て生る、明治卅四年十二月陸軍野戰砲兵第十三聯隊入隊、同卅七年任砲兵軍曹、同年日露戰役に從軍同年十月沙河激戰に於て右大腿盲貫砲創を受け野戰病院に入院、同卅九年戰功により勳七等に叙せらる、明治四十二年北大出青年會々長、同四十四年伊那富在鄕軍人分會副會長、大正六年北大出區長、大正七年北大出消防組頭、大正九年北大出消防組顧問、同十年伊那富村會議員、同十四年北大出第二養蠶組合長現職中、同十四年八月第二回國勢調査委員現職中、實兄陸軍歩兵上等兵勳八等功七級新吾君明治卅八年日露戰役奉天の激戰に於て頭部貫通銃創を被り戰死す依て家を繼ぐ

伊那富村

## 宮澤庄三郎君

明治十一年一月十五日を以て生る
同四十年宮所耕地總代
大正十二年一月宮所養蠶組合長に當選就職今日に至る
同十二年三月伊那富村農會總代に當選
同十四年四月伊那富村々會議員に當選
同十四年五月伊那富信用販賣利用組合監事に當選現に其職に在り



伊那富村

## 三浦兼十君

慶應三年九月十日伊那富村今村に生る
六歳寺小屋に入り明治八年今宮學校に轉じ、同十二年小學校全科卒業試驗に合格長野縣より賞として日本地圖一部附與せらる、其後は家に在り農業に從事す、同三十七年九月伊那富村書記に擧げられ、土地臺帳名寄整理を完成す、三十八年戰時產業督勵に際し盡瘁表彰せらる、三十八年伊那富村衛生組合副長、四十年伊那稅務署第一回土地事務講習を受け四十二年再び衛生組合副長に當選同四十四年書記を辞し專ら土地測量に從事、伊那電氣鐵道伊那町赤穗間高遠原上片桐間の實測に從事す、同四十五年伊那富村土地調査員に、大正二年今木消防組頭に、同四年御大典奉祝準備委員同六年村是調査委員、同年九月本縣第十一回統計講習會に於て統計大意町村是調査大要講習、同十年村會議員、同年七月小學校及隔離病舍臨時建築委員、十三年伊北農商學校組合會議員、十四年伊那稅務署聽舍落成に際し土地調査員として表彰其他村治上各種の事業に干與し東奔西走殆んと寧日なしと云ふ

伊那富村字北大出

## 清水丑太郎君

明治十年十二月六日を以て生る
同二十二年伊那富小學校卒業
同三十年第一師團工兵第一大隊に入營
同三十二年伍長に任ぜらる
同三十七八年戰役に從軍
同三十七年軍曹に任ぜらる
同三十九年同三十七八年戰役の功に依り勳七等功七級に叙せらる
大正元年北大出區長となる
同三年村社神明神社氏子總代となる
同四年北大出消防組頭となる
同十四年村會議員となり現任中

中箕輪村

## 林榮太郎君

明治四年正月二十一日を以て生る
明治廿四年より四ヶ年間中箕輪村役場書記
同四十四年下古田區長勤務
其の他下古田區會議員となり
大正十三年農會總代に當選
同十四年又下古田區會議員に當選す
其他傭徒總代等となり公共の爲めに盡力する事少なからず

中箕輪村

## 北條種吉君

家業は疊製造業なり
大正九年木下區長代理者並木下區會議員に當選
同十二年三月木下區長に當選就職今日に及ぶ
同十三年三月再び木下區會議員に當選今日に及ぶ
其他衛生組合長、寺院總代、神社總代等、專ら社會公共事業に後半世を捧げて盡瘁せらつゝあり



中箕輪村五百四十二番地

## 小原儀十郎君

明治十一年三月十五日を以て生る
陸軍歩兵中尉正八位勳六等
長野縣尋常小學校卒業第四高等學校中途退學
明治三十五年十二月一日一年志願兵として近衛歩兵第二聯隊へ入營
同三十六年十一月三十日滿期除隊
同三十七年六月十一日歩兵第一聯隊へ召集
九月十四日任歩兵少尉
十月一日歩兵第一聯隊付
十一月一日叙正八位
十　月　出　征
十一月廿六日より十二月五日に亙る清國二〇三高地戰鬪參加負傷後送せらる
同卅九年二月召集解除
四月戰役の功により勳六等單光旭日章を賜はる
同四十四年二月帝國在鄕軍人會中箕輪村分會副長
大正二年七月任歩兵少尉
大正五年四月帝國在鄕軍人會中箕輪分會長
同九年四月帝國在鄕軍人會中箕輪分會長辞職
同十年六月十六日中箕輪村長に就職
同八月中箕輪村農會長就職
同十四年六月十五日中箕輪村長滿期退職
同十月中箕輪村農會長辞職

中箕輪村五百四十三番地

## 小原眞一郎君

明治九年十一月十八日を以て生る
明治卅八年四月六日澤消防組小頭に任命さる
同四十五年一月十六日同消防組小頭被免
同四十一年四月一日澤區長代理者に當選
同四十二年三月卅一日同區長代理者退職
同四十四年四月一日澤區長代理者に當選
同四十四年四月十一日中箕輪村農會理事補を囑託せらる
同四十四年十一月三十日澤區長代理者辭職
大正四年四月一日澤區長に當選
同四年四月十日中箕輪村農會澤支部理事補に撰任さる
同六年三月卅一日澤區長退職
同五年四月廿二日澤區會議員に當選
同五年九月二十日中箕輪村尙武會委員に囑託せらる
同七年七月廿七日村社蕗原神社氏子總代に當選
同八年四月一日澤三部納稅組合長に當選
同十年三月卅一日同納稅組合長退職
同九年四月廿一日澤區會議員退職
同九年四月廿二日澤區會議員に再選
同九年七月二十日國勢調査委員任命
同十年七月廿七日村社蕗原神社氏子總代再選
同十三年一月二十日西天龍耕地整理組合會議員に當選
同十三年七月廿七日氏子總代再選
同十三年四月廿一日澤區會議員退職
同十四年三月卅一日村會議員に當選
同十四年四月廿三日臨時會計檢査立會人に當選
同十四年八月四日中箕輪村助役就職



中箕輪村

## 勳八等 唐澤海次君

安政三年十月二十日を以て生る明治十七八年の現地目總代を命ぜられたるを公務の最初とし、明治十九年戶長役場筆生を命ぜられ、在勤中市町村制實施に際し村役場書記に撰任せられ、松島神社神殿建築委員、松島郵便電信局舍建設創立委員、松島區會議員、松島神社氏子總代、松島明音寺檀徒總代、本村收入役、本村外二ヶ村學校組合學務委員、兼收入役、本村助役に學校建設役場建設隔離病舍建設役場文庫建設等、何れも委員に、村農會主計、村長に、赤十字社分區委員、愛國婦人會委員、上伊那消防組同盟會名譽會員、帝國軍人後援會分會長、帝國義勇艦隊建設委員、日本生存保險募集委員、府縣聯合共進會長野縣協賛會委員、村農會長、衛生組合長、納稅組合長等公務に盡瘁したる事枚擧に遑あらず、明治三十七八年戰役の功により勳八等白色桐葉章を賜る、三十七八年事件の功により日本赤十字社松方社長より木杯一個並に謝狀を賜る、日本赤十字社事務の功により長野支部長より感謝狀を受けたる事二回、學校建築費縣道改修費其他へ寄附し縣知事より木杯及賞狀を受けたる事數回

夫人はなよ子は同郡伊那町牧田由平氏の長女にして五男二女あり長男俊雄氏は師範學校出身にして本村學校首席訓導たりしも惜かな病歿せり嫁ぎん子は同郡朝日村新村周治氏二女にして女子師範學校卒業現今本村學校に在職二男三女あり長孫正氏は伊那中學校孫女千鶴子は伊那高等女學校に何れも在學中二男健一氏は金澤醫學士にて東筑摩郡島立村軍醫百瀨公正氏の養子となり目下伊那町八幡町百瀨醫院の院主たり三男博氏は東京市本所區若宮町に袴專門店開業同區業平町深川區麻布區等に支店を置き大商人たりしも不幸震災の爲めに死亡せり四男文雄氏は東京藥學校出身にして現今東京市中外印刷材料株式會社の取締役社長たり五男英俊氏は農業學校出身にて平出銀行勤務中病死せり長女藤江子は長野縣士族正六位勳六等奥谷千代也氏に嫁す二女靜子は同郡辰野上島榮一郎氏に嫁し五男二女あり

中箕輪村二百二十四番地

## 東城甕之助君

明治卅五年一月十五日八乙女消防組頭任命
同四十年三月十六日八乙女區長當選
同四十年七月五日郡會議員當選
同四十四年十月迄勤務
同四十年十一月十一日八乙女區長當選
同四十二年中箕輪聯合衛生組合副長となる
同四十五年三月廿九日區長當選
大正二年三月三十日村會議員當選
大正十年三月區長當選
同十四年區長當選
其他村及區等の事務に鞅掌したる事尠なからず

中箕輪村

## 故唐澤喜三雄君

嘉永六年八月十八日中箕輪村上古田に生る
高橋白山先生の塾に學ぶ
村會議員たる事二期
消防組頭
區長、區會議員等勤務
明治四十四年五月有限責任上古田信用購買組合を創立し、組合長となる一意專心其事務に努力し成績見るべきものありしが、業中途にして大正七年十二月急に病歿せられたり
嗣子喜治君は明治四十二年四月上伊那農學校入學大正元年三月卒業以來農事に從事す
大正七年父君歿後繼ぎて組合長となり、專ら產業の改善に力めつゝあり



中箕輪村上古田

## 唐澤官治君

村會議員
消防組頭
郡會議員
其他區會議員、區長等、總て名譽職を務むる事尠なからず、嗣子孟士君は中學を卒業し目下ラジオ製作に付研究しつつあり

中箕輪村三百十八番地

## 唐澤作之助君

明治十年二月十二日を以て生る
明治卅五年以來正全寺信徒總代たる事三回
同上上古田區長たる事二回
明治四十年以來村社箕輪古田神社氏子惣代たる事三回
同四十三年及大正元年上古田區會議員當選
大正元年中箕輪村助役就任
同二年同村會議員當選
同年上古田消防組頭任命
同三年上伊那消防同盟會評議員當選
同年村農會副會長當選
同四年及八年の二回中箕輪村箕輪村隔離病舍組合會議員に當選
同十三年村農會評議員及郡農會豫備議員當選
同年村學務委員當選其他公共の爲めに盡瘁せる所少なからず

中箕輪村五千八百八十四番地

## 唐澤政雄君

明治十六年八月一日を以て生る
現上古田區長にして、又中箕輪村會議員及村農會總代に當選就職せる等、公共の爲めに盡力する事尠なからず

中箕輪村

## 唐澤久吉君

安政六年六月二十日を以て生る
明治卅二年三月十八日中原區長當選
同卅三年三月廿八日大本山總持寺勸募委員に補任さる
同三十三年三月卅日中原消防組小頭拜命
同卅七年八月卅一日上伊那郡尙武會中箕輪村支會委員拜命
同卅八年三月廿八日中箕輪村產業督勵委員拜命
同卅八年十二月廿六日本村農會評議員當選
同四十三年三月三十日中原區長代理に當選
同四十四年三月卅一日本村農會評議員當選
大正二年四月五日本村中原第一組衛生組合長當選
大正三年十二月廿四日本村農會評議員當選
同四年三月二十日本村中原區長代理當選
同六年三月廿六日本村中原區長に當選
同九年四月一日神社總代當選(現在)其他村農會各種品評會審査員たりしこと數回あり公共の爲め盡力する事少なからず



中箕輪村中原區

## 唐澤喜代松君

元治元年五月十日を以て生る
幼少より家名をつき中原消防組頭となる事二回
中原區長となる事三回、同代理者たる事五回
村會議員に當選せる事一回
中箕輪村聯合衛生組合副長たること二回
中箕輪村農事組合長
霧澤山掛公有林野統一整理委員
明音寺檀徒總代神社氏子總代
養蠶組合長等幾多公共の事務に鞅掌する所ありたり

中箕輪村中原區

## 唐澤光司君

中原消防組頭たる事多年
又中箕輪村會議員に當選
其他公共の事務に鞅掌する事少なからず
中原區の重鎭なりと云ふ

中箕輪村

## 唐澤捨治君

明治廿七年三月より大正十四年迄引續き大出區會議員勤務
同四十一年三月より同四十二年三月迄大出區長代理者
同四十二年三月より同四十三年三月迄大出區長
同四十二年三月より同四十三年三月迄大出消防組頭
大正三年三月より同十四年迄村社高橋神社氏子總代
同三年三月より同十四年迄大永寺檀徒總代
大正六年五月より同十年五月迄中箕輪村會議員
同九年第一回國勢調査委員
同八年一月より同十一年五月迄中箕輪小學校建築委員

中箕輪村

## 唐澤鐵治郎君



中箕輪村

## 中坪鞆治君

明治卅五年四月一日中箕輪村書記に選任
同四十一年五月一日同村收入役に就職
同四十年四月三十日滿期退職
同四十五年五月一日臨時中箕輪村收入役被命（上伊那郡役所）同年五月廿七日退職
大正元年十一月三十日西箕輪村收入役代理被命（上伊那郡長）同二年三月十日退職
同二年三月二日松島區會議員當選
同三年一月廿四日中箕輪村學務委員當選
大正四年四日一日松島區長當選
同六年三月卅一日滿期退職
同年三月廿一日中箕輪村會議員當選
同年四月七日中箕輪村臨時會計檢査立會人當選
同七年一月廿九日中箕輪村學務委員再選
同二月廿六日中箕輪村會計檢査立會人當選
同年十月五日村社松島神社氏子總代當選
大正九年二月廿八日中箕輪村臨時會計檢査立會人當選
大正九年三月十九日中箕輪小學校雨中体操場昇際口建築委員長當選
同年四月二日中箕輪村學務委員再選
同年七月二十日國勢調査員被命
同十年三月廿六日伊那區裁判所中箕輪出張所廳舍建築委員長當選
同十年三月卅一日中箕輪村會議員再選
同十年四月十八日中箕輪村臨時會計檢査立會人當選
同十年八月廿五日中箕輪村助役就職
同十三年一月廿日西天龍耕地整理組合會議員當選
同十四年三月卅一日中箕輪村會議員當選
同十四年七月七日中箕輪村長に就職現に其職にあり
同十四年七月十日中箕輪村箕輪村傳染病院管理者當選就職
同十四年九月十四日赤十字社長野支部中箕輪村分區長を囑託せらる
同十四年十一月四日中箕輪村農會長當選
明治卅九年四月一日三十七八年戰役の功により賞勳局より銀盃を賜はる
其他赤十字社中箕輪村補助分區委員勤務中委員長（長野縣知事）より謝狀木杯を賜はる
明治四十五年五月中箕輪村收入役退職の際村より銀盃を贈與せらる

中箕輪村九百八十六番地

## 向山政三君

安政元年正月二日を以て生る
舊幕政時代名主役勤務
明治十五年八月より同三十一年迄中箕輪村會議員
明治十七年より現在富田區村社氏子總代
明治十七年より現在養泰寺檀徒總代
明治十八年一月六日より凡四年中箕輪村戸長役場筆生
明治卅五年一月より四ヶ年中箕輪村學務委員
大正二年三月十三日より五年三月十三日迄中箕輪村助役大正元年十二月十一日より大正十年十一月迄富田區會議員

中箕輪村富田區

## 向山治雄君

明治十九年十二月二十七日を以て生る
明治三十七年上伊那甲種農業學校卒業
其の後農業に從事す
大正八年より九年迄富田區長勤務
大正二年富田區會議員勤む
大正十四年村會議員に當選現職中
同十四年五月より本村富田消防組頭就職



中箕輪村一五二七七番地

## 向山谷人君

明治二十一年三月廿八日を以て生る
東京市立工手學校土木科卒業
明治四十五年二月朝鮮總督府鐵道局勤務
大正七年十一月辭職歸省
同八年九月伊那電氣鐵道株式會社勤務
同十年四月中箕輪村々會議員當選
同十一年より同十四年迄(四ヶ年間)小學校建築委員
現に伊那電氣鐵道株式會社勤務中

中箕輪村

## 向山彌陀助君

明治十一年四月二十七日中箕輪村富田區に生る
明治二十七年四月箕輪尋常高等小學校卒業
同四十三年四月より蠶館と稱し、蠶種製造業を起し今日に至る、其間微粒子病の絶滅々人工孵化種に付て研究し奏効の實を擧げ蠶業界に貢献せんとしつゝあり
明治四十三年十一月富田消防小頭任命、大正六年六月組頭を命せられ同十一年三月依願免職、同二年箕輪生糸販賣組合設立委員となり、同組合を組織し同九年株式會社箕輪館製糸場と變更し、其間理事監事を勤め現在監査役たり
大正六年四月中箕輪村會議員に當選、同十年三月滿期同九年十一月富田區會議員に當選、十三年十月滿期

中箕輪村松島

## 浦野喜作君

中箕輪村松島字境の人
資性剛直、大正十四年四月中箕輪村會議員に當選、
現に其職に在り

中箕輪村二千百三十九番地

## 井澤禎一郎君

明治七年五月廿一日を以て生る
井澤氏性は源氏元小笠原氏より出づ、小笠原長清八氏の孫政長其子政時に至り分れ世々小笠原氏に屬す、其四代の孫頼直に至り小笠原長時の命により笛吹峠を守る、時に長時武田氏と戰ふと聞き直に深瀬城に赴き援はんとせるも、途に深瀬城陷り長時退くと聞き、止むなくして伊那郡に至り、祖先の縁故ある箕輪に住す、天正中毛利河内守伊那郡を領し召出され、古來の筋目により所有する所の土地の貢租を免せらる、子頼刑に至り慶長中小笠原秀政の領となり、孫時成に至り元和中脇坂氏の領となり、毛利氏に准して所有地の貢を免せらる、其子正勝に至り高遠城主保科氏の臣柴氏の女を娶とる（今の柴五郎大將の祖先）、又女を柴金兵衛に娶はす、以來世々大出に居住し、名主役を勤む頼直より十一代七郎に至り明治維新となり子榮吉を經て現代禎一郎君に至る、祖先の此の地に住するより十三代となる、公務としては區會議員たる事三回、區長消防組組頭學務委員聯合衛生副組合長村會議員等其他公共の爲めに盡したること尠なからず



中箕輪村澤區

## 大槻文雄君

明治二十三年二月二十四日を以て生る
大正二年三月東京農業大學高等科卒業
同六年伊北農商學校教諭就職
同八年より十二年迄中箕輪村農會技術員及同村補習學校教員勤務
大正十年上伊那郡聯合青年會長當選
同十二年中箕輪村澤區消防組々頭に、同十三年中箕輪村學務委員に、大正十四年中箕輪村農會副會長に、同十四年所得税調査委員に就職何れも現にその職に在り、
嚴父大槻玉三郎君は村會議員、助役、所得税調査委員、郡會議員等幾多公職に鞅掌し、又上伊那銀行監査役及取締役として地方財界の爲めに貢献せらるゝありしが、大正十二年十月七十五歳を以て終に逝去せられたり。

中箕輪村

## 故 桑澤定次郎君

篤農家を以て其の名を知られし君は、中箕輪村澤區に生る、家專ら農を業とし勤儉産を治め傍ら公共の事に盡力す、澤區會議員、同區長、澤消防組小頭、中箕輪村會議員、同村助役、同村學務委員、農會委員等、相次ぎて公職に鞅掌し、其間神社總代として神社の統一新殿の造營に、寺院檀徒總代として西光寺の新築に、山野總代として、林野の整理に、農事督勵員として、地方の指導に貢献せし所枚擧すべからず、

君は神道家桑澤四郎右ェ門の曾孫にして、克く其の傳統を享け謹嚴誠懿愼言篤行其化を受くるもの多し、晩年俳諧を能くし夜雪庵金羅に私淑し風月を樂しみたり

中箕輪村

## 桑澤熊三郎君

明治五年十一月二十六日を以て生る

明治三十年澤區財産管理委員に當選滿期再選せらる、同年羽場北大出新町澤松島五區共同田用水井堰世話掛りに當選滿期再選勤續廿九年に及ぶ、同三十一年羽場北大出澤三區下井堰世話掛りに當選滿期再選となり勤續二十八年に及ぶ、同卅二年澤消防組小頭拜命、同四十年及大正八年澤區長當選、明治四十三年中箕輪村會議員當選大正二年再選、大正三年立憲政友會南信支部評議員囑託せらる、同九年第一回國勢調査委員任命、同六年澤區會議員に當選滿期再選、同六年中箕輪村伊那富村朝日村西箕輪村入會山野分割委員に當選、同七年澤養蠶組合長に當選滿期再選、同九年中箕輪村小學校雨中体操場建築委員に當選、同十一年中箕輪村箕輪村病舍組合會議員に當選、同十一年伊那蠶種冷藏庫株式會社取締役兼社長に當選、同十四年中箕輪村箕輪村組合隔離病舍建築委員に當選、同十二年澤入作として伊那富村農會總代に當選、其他西光寺担徒總代たる事數年なり



中箕輪村二百三十六番地

## 栗原文雄君

明治二十三年十一月十三日を以て生る

明治四十年三月廿七日縣立上伊那甲種農業學校卒業

同四十五年五月卅日より大正十四年十二月十四日迄中箕輪村書記勤務

同十四年十二月十五日中箕輪村收入役に選任就職今日に至る

大正四年一月十日中箕輪村聯合青年會副會長に當選、同六年一月十日同村聯合青年會副會長に再選、同八年一月九日滿期退職

同九年七月二十日第一回國勢調査委員に任命せらる

同十四年八月一日第二回國勢調査員に任命せらる

中箕輪村木下

## 倉田輝三君

東京中學校卒業

家業は藥種商なり

君は安田家の經營せる共濟生命保險會社社員として同社名古屋支店に活動しつつあり、

同君の令妹みね子女史は東京女子醫專出身にて同村に於て只一人の女醫として目下松本市に開業聲望高し。

中箕輪村松島

## 山岸節三君

明治三十一年を以て生る

幼名を程三と云ひ、父歿後襲名して節三と改め、父祖の後を受けて酒造業を經營せらる、上伊那郡隨一の酒造家なり、

大正十四年四月中箕輪村會議員當選、資性温厚にして業務勤勉、前途有望なる人なり

中箕輪村

## 小平國八君

明治元年正月八日を以て生る

先代以來現在に至る迄明音寺檀徒總代を繼續勤務

明治卅四年より大正十三年迄に四回下古田區長勤務

明治卅四年より三年間消防組頭勤務

明治卅三年より區長代理者たること二回、區會議員二回氏子總代三回、及衛生組合長下古田產業組合理事等勤務、現在產業組合監事、村農會總代、養蠶組合長等の職にあり



中箕輪村八乙女區

## 有賀三代吉君

安政六年六月五日現住地に生る

君は當區に於て區長を務むること三回、同代理者たること六回、霧澤山入會山代表者及會長となり、事務に從事する事多年、公有林野統一整理委員、明音寺担徒總代、神社總代等各三期を勤め、消防組頭となり、明治卅七年村會議員となり、聯合衞生組合副組合長等、其他村及區の公職に力めたる事枚擧に遑あらず

中箕輪村

## 下平敏夫君

明治六年九月二日を以て生る

明治二十八年八月中箕輪村役場書記に選任せらる、同卅三年九月中箕輪村農會代表者に當選、同卅三年十二月中箕輪村富田區會議員に當選、同卅四年三月中箕輪村會議員に當選、同卅七年一月中箕輪村學務委員に當選、同卅九年十二月中箕輪村富田區會議員に當選、同四十年五月中箕輪村農會副會長に當選、大正元年十二月中箕輪村富田區會議員に當選、同二年五月中箕輪村聯合衞生副組合長に當選、同五年四月中箕輪村箕輪村組合會議員に當選、同六年三月中箕輪村會議員に當選同九年四月中箕輪村箕輪村組合會議員に當選、同九年十二月中箕輪村富田區會議員に當選、同十三年十二月中箕輪村富田區會議員に當選。

中箕輪村一二五八四番地

## 清水東洋雄君

明治二十一年九月一日を以て生る
明治卅六年長野縣立長野商業學校卒業
大正十二年四月中箕輪村農會總代當選
同年五月同村農會評議員當選
同十三年四月木下區會議員當選
同十四年三月中箕輪村會議員當選
同年五月西天龍組合會議員當選
同年八月中箕輪村學務委員當選
何れも現にその職に在り

中箕輪村下古田區四八九番地

## 柴慶藏君

明治五年十一月を以て生る
氏子總代たること三期
區長たること四期
村會議員たること二期
組合會議員たる事一期
其他公共の事務に鞅掌すること尠なからず



中箕輪村四九〇二番地

## 柴喜榮君

明治十六年一月二日を以て生る
明治卅四年四月より現今に至る小學校教員奉職
大正十二年一月より同十五年三月迄下古田消防組頭勤務
同十四年十月國勢調査員任命

中箕輪村松島

## 勲七等 日野守人君

君は多年中箕輪村長として令名高かりし故日野祖資氏の長男として生れ、父君歿後父祖の業を續ぎて松島郵便局長として多年通信事務に鞅掌せられ、又村會議員として中箕輪村治の爲めに貢献せられ一面株式會社箕輪銀行取締役、松島運送株式會社の重役となり實業界に雄飛せられ、更に近年多大の自費を投じて水道敷設を計劃し組合を設立して其工事を完成し、松島水道の爲めに多大なる努力を拂はれた

## 池上多摩太郎君

明治三年七月八日を以て生る
南箕輪村農會理事として四ヶ年間忠實に其の任務を盡したることあり
明治三十六年頃より消防小頭として五年間勤務、縣警察部長より功勞賞を受けたることあり
同三十八年頃南箕輪村大泉信用購買組合設立せられて以來監事二期、理事二期中大正八年度理事長一ヶ年勤務其後大正十二年解散となる、大正十年主要食糧農產物改良增殖委員を囑託せらる、同十二年新農會法に依り村農會設立初期農會總代に當選尙農會と區の關係上理事二ヶ年又區農會設立せらるるや、區農會長に當選現今に至る
同十三年旱害の爲め區の被害調査の上免租申請等に盡力して法規上の免租を受けたり
同年末より本村學校に奉安殿建設に付き建築委員に推選せられ其工事を竣成せしむ
同十四年西天龍組合會議員補欠選擧に無競爭にて當選し現在に至る





## 原參三君

明治十二年二月十三日を以て生る
醫學專問學校を卒業し鄕里に於て開業、村醫及學校醫を囑託せらる
大正十二年六月より十四年五月迄消防組頭勤務
大正八年十月より郡制廢止迄上伊那郡會議員勤務
現に聯合衞生組合長顧問たり

南箕輪村四十一番地

## 堀　貞　雄　君

明治十二年三月二十二日を以て生る
明治四十年三月十五日南箕輪消防組久保部長を命せらる、同四十一年四月六日上伊那消防同盟會名譽會員に推薦せらる、同四十二年九月南箕輪村學務委員に當選す、同四十三年四月十三日南箕輪村村會議員に當選す、同四十四年三月七日南箕輪村助役に當選就職、大正二年四月十四日南箕輪村村會議員に當選す、同三年二月二十日南箕輪村農會副會長に當選す、大正四年十月五日上伊那郡會議員に當選す、同九年一月十三日南箕輪村消防組々頭を命せらる、同十三年八月四日長野縣警察部長より南箕輪消防組名譽組員に推薦せらる現在村農會總代、部落有財產統一委員、入會山野分割委員、久保養蠶組合長、久保第四農家組合長等勤務、其他區長を初め區の事務に鞅掌せる所尠からざるものありしが、感ずる所あり名譽職を止め專心農蠶の爲め盡力し傍ら農村振興方面に活動せんとす、とは君が自ら告白せる所なり。
明治四十一年十二月廿日長野縣警務長より功勞證書を授與せらる。
大正十三年十月十七日長野縣聯合消防同盟會總裁より表彰せらる。



南箕輪村二七五二番地

## 唐　澤　喜　一　君

元治元年八月十三日を以て生る
明治廿六年五月廿五日長野縣小學校教員免許狀を受く
君が履歷は西箕輪村北分教場校地の傍に建設せる頌德碑に大要を記せるを以て今其全文を左に掲記することとせり（頌德碑竪七尺五寸幅三尺）

### 頌　德　碑

唐澤喜一氏は元治元年八月十三日信濃國上伊那郡南箕輪村大字大泉唐澤平之亟氏の四男に生れ十三歲にして出でて唐澤本次郎氏の養嗣子となる資性溫厚にして幼より學に志し刻苦勉勵具さに辛艱を嘗む業成るや明治二十二年五月西箕輪村吹上簡易小學校訓導に職を奉ず明治二十五年家事の都合により一時退職せゝと雖も翌二十六年再び就職し爾來二十有餘年の長き校名の改稱變更等其間幾多の變遷推移ありと雖も君は常に主任訓導或は校長として身を子弟の育英に棒げ君の薫陶を受けたる者實に八百有餘人の多きに上る校舍の改築設備の整頓實業補習學校の設置青年會婦人會の指導等多くは君の盡力による君の子弟を敎ふるや熱心懇切諄々として倦まず孜々として厭はず終始一貫自ら其の老ゆるを知らざるものの如し蓋し至誠有德の士に非ずんば能はざる所なり今茲大正六年三月君の病を以て職を辭するや門弟諸子深くこれを惜み其德を慕ひ其恩を念ひ相謀りて頌德碑を建て永く其德風を後昆に傳へんとし余に撰文を囑せらる余亦君の功績を偉とし敢て需に應じ其梗概を叙すと云爾

大正六年十一月一日
長野縣知事從四位勳三等赤星典太篆額
長野縣上伊那郡長從七位横尾惣三郎撰文
薄井茂樹謹書
彫刻師松本市　大槻勇太郎

其他公共事務に盡力せる主なるもの左の如し
大正七年六月六日南箕輪村農會大泉部理事に選任せらる、同十年一月大泉信用購買組合理事に當選、同十一年十二月十二日南箕輪尋常高等小學校建築委員に選任せらる、同十二年一月十三日大泉區長に當選、明治四十五年四月九日西箕輪小學校に永年勤續の功績を表彰せられ木杯一組贈與せらる
大正六年十一月廿三日敎育上功績顯著の廉により謝狀及金圓を贈らる

南箕輪村二七五四番地

## 田中靜雄君

明治十六年五月十日を以て生る
明治卅六年七月一日南箕輪村役場書記に就職
同四十二年一月南箕輪消防組小頭を命ぜらる
大正二年一月大泉信用購買組合長に就職
大正六年一月十五日大泉區長に當選就職す
同四年三月村社大和泉神社氏子總代に當選就職現在に至る
大正八年十二月廿八日西天龍耕地整理組合會議員に當選同十二年十二月滿期、翌十三年一月再び同議員に當選今日に至る
大正九年一月區長代理に當選
同九年七月二十日第一回國勢調査員を命ぜらる
同年十一月嶺頭院住職小林惠鏡師同氏宅より晋山せらる
同十年四月十四日南箕輪村會議員に當選十四年四月滿期
同十年六月十日産業統計調査委員を命ぜらる
同十一年六月南箕輪村助役に就職同十三年一月辭職
太正十三年一月辞職同十二年二月南箕輪村農會長に當選同十三年二月辞職
同十三年十二月南箕輪聯合衛生組合副長に就職現今に至る大正六年一月より横井戸開鑿を計劃し、坂井壽美次郎唐澤喜一、清水忠隆、清水初太郎の諸氏相計り工事に着手し後三年にして多量の湧水を見、現在飲用水を充たし開田二町歩を得たり
大正十三年二月南箕輪村より助役在職中小學校建築の勞により金貳拾圓を贈らる
大正十四年六月南箕輪村助役在職の紀念として鑞時計一個を贈らる



明治二十二年九月十九日を以て生る
明治四十年上伊那農學校卒業
明治四十二年より大正十年迄南箕輪小學校教員勤務
大正十一年五月卅一日學務委員當選現任中
尚現に南箕輪信用購買組合長たり

南箕輪村七七八六番地

## 高木義敬君

南箕輪村一〇〇八番地

## 堀　和三郎君

明治廿一年十月二十日を以て生る
松本中學校卒業
南箕輪村素封家堀貞雄氏の舍弟にして分家なり、消防組役員、南箕輪村會議員現任中、資性恬淡にして能く鄕黨の爲めに一身を犧牲として努力せらる、

南箕輪村長滿期再選勤務
南箕輪消防組頭勤務
南箕輪村會議員滿期再選勤務
南箕輪村聯合衞生組合長滿期迄勤務
南箕輪村學務委員現任中
西天龍耕地整理組合副組合長現任中
其他村及區の公共事務に鞅掌したること枚擧すべからず

南箕輪村

## 征矢友三郎君



明治二十一年三月五日を以て生る
大正十年統計調査員任命
同十二年南箕輪消防組塩の井部長任命
同十二年西天龍耕地整理組合會議員當選
同十三年塩の井區長當選
同十四年再び區長に當選
同十四年南箕輪消防組々頭代理任命
長野縣消防同盟會より表彰せらる
長野縣警察部長より表彰せらる

南箕輪村四百十八番地

## 征矢脩三君

南箕輪村三六七八番地

## 征矢嘉一郎君

嘉永六年二月十八日を以て生る
大正十二年九月年七十二歳にして天理教校入學大正十三年二月同校卒業
自明治廿五年至今日
夙に農蠶業の改善に志し濕田に暗渠を穿ち排水工事を行ひ以て良田と化し、大收益を納め其の實績を示し、蠶業に於ては卒先全芽飼育法を唱導し進んで條桑育の研究を重ね良成績を得て之を四方に推奬し、以て今日の普及發達を見るに至らしむ
大正十三年十月天理教權訓導に補せらる
大正十四年四月長野縣知事の許可を受け、上伊那郡南箕輪村三六七八番地に天理教甲賀大教會岐美分教會濃武支教會塩の井宣教所を設置す
大正十四年四月天理教訓導に補せらる
大正十五年一月天理教權少講義に補せらる



南箕輪村四六六番地

## 征矢善一郎君

明治四十一年五月廿一日を以て生る
山葵栽培を業とす
父正誼君區長、區會議員其他公共の爲めに盡瘁する所尠なからざりしが不幸壯年にして歿せらる、祖父梅之助君西南戰爭に參加し、勳八等恩給を有したるが之又壯年にして歿せられたり

南箕輪村四六四番地

## 征矢朝一君

明治十一年一月十日を以て生る

村會議員、農會總代、區總代等として公共の爲めに盡瘁する所尠なからず



南箕輪村百七番地

## 征矢嘉十郎君

慶應元年五月六日を以て生る

明治四十三年三月五日南箕輪消防組部長に補せらる

大正四年一月十三日塩の井區長に當選

同六年四月十四日村會議員に當選

同七年二月十三日村青年會名譽會員に推薦せらる

同十年八月十八日聯合衛生組合副長に當選

同年一月十五日產業組合理事當選

同年一月十三日塩の井區長に當選

大正十三年一月學校增築建築委員

同十二年一月三日西天龍耕地整理組合會議員當選

同十二年三月十六日南箕輪村農會總代當選

同十三年六月一日主要食糧農產物改良增殖督勵委員を囑託せらる

同十三年八月十八日聯合衛生組合副長に再選

明治四十二年十二月二十日長野縣警務長より消防功勞證書附與せらる

南箕輪村二七一番地

## 征矢鐵之助君

南箕輪村

## 倉田重樹君

明治九年二月二日を以て生る

家系は草創以來幾多の星霜を經て遺史烏有に屬し、祖先の經歷詳かならざれども、降て享祿年間勘兵衛代より庄右衛門代迄十五代名主役を勤めたることは現存せる古書類により明かなり、明治維新に際して繁雜の事務を整理し爾來副戸長となり后退隱彌次兵衛相續す、彌次兵衛村會議員及學務委員耕地總代衛生委員等、村治の要務に當り公共事業に盡したること尠なからず、君は明治卅二年役場書記に就職、三年にして職を辞したるも、耕地總代、村土木建築委員等の選に當りて之を勤め、其間村社氏子總代を勤續すること十有餘年、大正十年村會議員に當選し同十四年再選、現職中なり、其他土木、教育、勸業、衛生等村及區の公務に鞅掌私事を顧みるの遑なしと。



南箕輪村千二十番地

## 倉田準君

明治十二年八月二十九日を以て生る

君は南箕輪村久保の篤農家に生れ、長するに及び青年支會長となり、思想の善導に努力し、又消防部長となり、五ヶ年間勤續す

大正八年十月村學務委員に當選、同十一年九月再選現任中、此の間校長の更迭三度能く學校の樞機に參し、大正十二年校舍增築に際しては專任建築委員となり、日夕工事に專從事す、大正九年農村經營並經濟助長を劃し同志と計り、產業組合を創立し、專務理事として三ヶ年組合成績の進展に努む、大正十年村會議員に當選し同十三年助役に推薦せられ、同十四年三月時の村長職を辞し缺員となるや、村長代理として或は小學校奉安殿建築を爲し、或は官行造林經營を敢行する等、村治改革向上に盡瘁し、又村農會副會長を兼ね、今向在職孜々として家事を顧みるの遑なしと云ふ

南箕輪村二二八番地

## 倉田孝一郎君

元治元年八月七日を以て生る
明治十一年北殿學校卒業
明治二十七年五月南箕輪村勸業委員に當選就職
明治二十八年四月南箕輪村會議員に當選同三十四年四月迄六年間勤務
同年同月南箕輪消防組小頭を命せらる
同二十九年六月同村土木委員當選
同三十年十一月南箕輪村消防組部長を命せらる
同三十六年十一月南箕輪郵便局事務員に任せられ、局長代理として爾後十ヶ年勤務
同三十八年四月南箕輪村產業督勵委員に選任せらる
大正二年三月南箕輪村收入役當選爾來勤續現に其職にあり
明治二十四年上伊那郡役所及伊那警察署新築費として金員を寄附し本縣知事より賞狀を受く
同二十七年五月南箕輪小學校備品購入費として金員を寄附し本縣より賞狀を受く
同三十年六月明治二十七八年戰役の際軍資金の內へ金員を献納の廉に依り本縣より賞狀を受く
同三十一年十月三陸大海嘯の際罹災者救恤費として義捐したる廉に依り賞狀を受く
同三十七年軍事費補足の趣旨を以て献金の廉に依り賞狀を受く
同三十八年十一月帝國義勇艦隊建設に際し義捐徽章及謝狀を受く
同四十一年四月上伊那消防同盟會へ金員を寄附し名譽會員に推薦せらる



南箕輪村一三一番地

## 出羽澤岩次郎君

安政六年十月十六日を以て生る
明治二十五年三月卅一日南箕輪村會議員に當選
同廿六年七月退職
明治廿六年十一月十九日南箕輪村會議員に當選
同卅一年四月十二日退職
同卅二年五月十一日南箕輪村收入役に就職
同年同月廿七日退職
明治四十四年十月上伊那郡會議員に當選
大正二年一月退職
其他區長を始め村及區の公共事業に鞅掌する所尠なからず

南箕輪村

## 赤羽猪兵君

明治元年四月廿二日を以て生る
明治廿二年南箕輪村役場書記就職
同卅四年九月南箕輪村助役就職
同卅五年九月退職
同卅四年四月南箕輪村會議員當選
大正二年四月退職
明治四十一年九月南箕輪村長に就職
同四十四年五月退職

南箕輪村九八七番地

## 赤羽忠三君

明治十二年四月二日を以て生る
明治卅七年より二十九年迄東京慶應義塾にて修業同卅三年小縣甲種蠶業學校卒業
明治卅四年長野縣蠶種檢査員拜命同卅六年御用濟に付退職
同卅七年長野縣蠶病豫防委員任命同年六月依願退職
同卅八年長野縣農事試驗場技手拜命同年御用濟に付解職
大正四年南箕輪村會議員に當選同八年滿期
同六年南箕輪村學務委員に當選同十年滿期
同六年南箕輪村久保區長に當選滿期迄勤務
同七年南箕輪村農會副會長に當選滿期迄勤務
南箕輪村衛生副組合長及同村久保區會議員現任中
大正十二年長野縣養蠶教師に認定さる





## 有賀峰三郎君

明治二年一月廿一日を以て生る
明治廿二年十二月長野縣師範學校卒業
同年同月長野縣小學校本科正教員免許狀受領
明治卅五年七月試驗檢定に依り東京高等成師學會より教育科倫理科の修業証書を受く
同卅六年十月全國小學校本科正教員免許狀受領
同廿二年十二月より大正十三年三月迄長野縣內高等小學校尋常高等小學校農工農商實業各補習學校の訓導、校長、東京市實業學校教諭、郡視學、長野縣貯金奬勵委員、郡農會名譽會員、小學校教員講習會講師、郡立實業學校並に病院設置調査委員等勤務
大正四年十一月大禮記念章授與
同五年十一月叙從七位
同八年二月普通教育奬勵規程に依り長野縣より銀盃並に金圓を受く
大正十一年十一月叙勳八等授瑞寶章
同十一年十一月東京市深川區教育會より教育功績表彰狀を受く

南箕輪村百四十五番地

## 酒井壽次郎君

慶應元年二月廿七日を以て生る
明治三十年より三ヶ年間氏子總代
同三十四年より同四十一年迄消防組部長
同三十八年大泉耕地總代
同卅八年より六ヶ年南箕輪村會議員
同四十一年より四ヶ年南箕輪學務委員
大正四年大泉區長
大正六年より四ヶ年南箕輪村會議員
大正六年より南箕輪林務委員
同七年より學務委員
同七年より現在迄山野分割委員
同十一年區長
明治三十八年より大泉信用購買組合監事四十二年より理事長即ち組合長となり、大正十一年上伊那郡部會より部會十五周年記念に付表彰を受く
其他村及區の公務に鞅掌せる所尠からず



南箕輪村千九番地

## 木下左門治君

明治十六年九月十六日を以て生る
久保耕地總代
南箕輪村會議員
久保區會議員
南箕輪土木建築委員
同村農會評議員
上伊那郡農會議員
南箕輪消防組頭
同消防組部長
産業組合理事等を勤めとして村及區等の公務に鞅掌盡瘁せること枚擧に遑あらず

明治二十年一月六日を以て生る
南箕輪村農會總代
南箕輪村消防組部長
青年會長等として公務に鞅掌する所尠からず
現に區長の要職にあり

南箕輪村二七二六番地

## 清水忠隆君



南箕輪村

## 有賀松太郎君

西箕輪村二九三番地

## 伊藤循三君

明治十一年一月八日を以て生る
明治二十五年三月中箕輪高等小學校卒業
明治廿八年中曾根青年會長當選
同三十年西箕輪北部青年會長當選
同卅一年西箕輪青年會長當選
同卅二年四月より同卅五年三月に至る西箕輪村役場書記勤務
同卅六年一月西箕輪消防組小頭任命
同卅八年二月同村消防組中曾根部長に補せらる
同四十五年以後引續き中曾根區會議員勤務
大正六年中曾根區長に當選
同十年四月西箕輪村會議員當選
同十二年中箕輪村農會總代に當選（中箕輪村に入作多き爲め）
同十四年十二月西箕輪村土木委員に當選
其他入會山野整理委員等兼務す
先代亡父伊藤七郎君は西箕輪村會議員二期、同村助役及村長を勤務

西箕輪村六二八五番地

## 伊藤茂君

明治十年九月二日を以て生る
明治三十三年三月より同三十六年三月迄の間役場書記たること二回
明治四十二年より大正五年迄消防組部長小頭任命
大正六年四月より現在まで村會議員三回就任
同七年十二月より現在迄氏子總代就任
同九年區長に就任
同十一年三月より同十四年四月迄消防組頭任命
同十三年より現在迄檀徒總代就任
同十三年區長代理に就任
同十四年十二月より村長に就任し現在に至る



西箕輪村四一八番地

## 伊藤明治郎君

明治六年三月十五日を以て生る
明治三十年區會議員となり經續今日に至る
同三十四年一月三十日西箕輪村消防組與地部長となる
同卅四年四月十五日村會議員となる
同卅六年與地區長となる
同卅五年小學校建築費金十五圓を寄附し其賞として本縣知事より木杯を受く
同四十年四月十五日消防組頭より功勞證書を受く
同四十年十二月廿五日長野縣警務長より功勞證書を受く
同四十一年十一月廿二日村長より功勞證書を受く
同四十一年十一月廿八日大日本消防協會頭より賞狀を受く
同四十一年十二月十五日上伊那消防同盟會より木杯を受く
同四十四年與地區長となる
同年八月十五日西箕輪村收入役就職
大正五年區長代理者となる、同八年與地區長となる、同十年區長代理者となる、同十二年村農會總代となる
同十四年區長代理者となる、
同十四年四月十六日村會議員となり現に其職にあり

西箕輪村四六八番地

## 伊藤常太郎君

文久三年五月一日を以て生る
大正九年國勢調査員（内閣任命）
同十三年西箕輪村與地區長
大正七年より今日迄西箕輪村與地衛生組合長勤務

西箕輪村乙四六五番地

## 伊藤磯太郎君

明治七年二月二日を以て生る
明治卅一年より同卅八年迄氏子總代
大正七年より引續き區會議員
同九年より引續き養蠶組合長
同十二年度區長
同十三年度農家小組合長
同十三年度納税組合長



西箕輪村六一七三番地

## 伊藤幸重君

明治廿八年十一月廿八日を以て生る
大正七年一月區青年會長となる
同八年一月區開盛社長となる
同年二月消防組小頭となる
同十年產業統計調査員となる
同年四月上伊那消防同盟會より賞狀を受く
同十一年消防組部長となる
同十二年警察部長より功勞賞を受く
同十三年主要食糧米穀增殖督勵委員となる
同十四年區長となる
同年當學務委員となる

西箕輪村一八三三番地

## 原貞三君

明治七年八月十日を以て生る
大正十年四月十六日西箕輪村會議員當選
現に其職に在り

西箕輪村七九四四番地

## 泉澤友衛君

明治二十年九月廿九日を以て生る
明治卅五年四月上伊那農業學校入學同卅八年三月同校卒業
明治四十三年十一月より大正二年四月迄役場書記就職
同四十四年九月より大正十二年三月迄消防組小頭部長並組頭代理就任
同四十五年六月より同年十二月迄收入役代理就職
同四十五年三月より大正五年二月迄村青年會長勤務
大正九年四月より大正十二年三月迄郡農會豫備議員就職
同九年八月より同十二年五月迄學務委員就職
同十年六月より同十二年四月迄產業統計調査員就職
同十年十二月より氏子總代就任現在に至る
同十二年四月より村農會副會長就職現在に至る
同十二年五月聯合衞生組合長就職現在に至る
大正十二年三月より助役就職現在に至る、同十四年四月村會議員就職現在に至る



西箕輪村

## 原寛一郎君

文久三年十月十日を以て生る
明治廿二年四月十九日西箕輪村會議員に當選同卅一年迄勤務
同卅一年十一月二十一日西箕輪村助役に就職同卅二年五月退職
同卅二年八月五日西箕輪村長に就職同卅四年一月二十六日退職
同卅四年四月十五日同村會議員當選同四十年四月再選大正二年四月滿期退職
同四十四年十月上伊那郡會議員に當選大正四年十月滿期退職
此間大正二年七月郡參事會員に當選
大正元年十月三十日再び村長に就職同年十二月廿四日退職

明治廿九年二月十九日を以て生る
大正二年長野縣立上伊那農業學校卒業
大正十二年四月西箕輪村農會技手拜命
同十四年三月同上辞任
同年四月同村收入役就職今日に至る
其他西山神社氏子總代現職中
西箕輪村上戸區々會議員現職中

西箕輪村四四〇二番地
原　安雄君



明治十八年四月一日を以て生る
明治四十一年度區祭典組長
同四十三年度區祭典副長
同卅八年徴兵として歩兵第十五聯隊第四中隊へ入隊同四十年十一月廿四日善行證書受領同年十一月廿六日除隊歸休
大正二年消防組小頭任命
同三年大泉新田區長就職
同十一年消防部長任命
同十二年西箕輪村農會役員
同十四年大泉新田區長
其他大正六年より引續き區會議員就職

西箕輪村一九七九番地
原　伸一君

西箕輪村

## 堀内今朝一君

青年當時區の青年會長たりしこと六期
青年當時村校に教鞭を執りしこと五ヶ年半
明治二十二年現地目調査總代となる
同二十四年地圖調製委員となる
同廿七年七月農商務統計調査委員となり大正四年七月辭任(在職二十餘年)
明治廿八年一月より村社熊野社氏子總代となり、現任(勤續三十ヶ年餘)
明治廿八年六月より父傳藏の後任として養泰寺保存總代となり其都度再選現任(勤續三十餘年)
同廿九年三月本村農作物試作人に推薦せらる
明治二十八年十一月消防小頭を命せらる
同三十年より共有山野總代となり現任(勤續三十ヶ年)
同三十二年第二回上伊那品評會審査員に擧げらる
同卅二年十二月學務委員となり再選二回同四十四年十二月滿期退職す(在職十二ヶ年)
同卅二年十二月赤十字正社員となる
同卅三年二月學校建築委員となる
同卅三年三月大本山總持寺勸募委員補となる
同卅四年一月大日本武德會特別會員となる
同卅七年五月消防部長任命在職六ヶ年
同卅七年一月產業督勵委員となる
同卅七年十二月土地評價人に指定せらる
同卅六年八月上伊那郡農會第三回農產物品評會審査員囑託
同卅七八年戰役當時尙武會委員及總代として活動す
同卅八年四月本村產業督勵部長に選任せらる
同卅八年十一月上伊那招魂社創立委員となる
同三十九年一月村農會評議員となる
同四十一年十二月上伊那消防同盟會特別會員となる
同四十三年三月本村在鄕軍人團特別團員となる
同四十五年大正元年度區長勤務(以前區長たりしこと數回)
同四十五年七月曹洞宗大本山總持寺再建勸募委員補となる
大正二年四月村會議員となる
同二年三月赤十字補助分區委員となる
同二年三月村農會副會長となる
同二年三月本村助役となる
同三年九月本村長となり同年八月滿期再選在職中主なる事項を摘記すれば
本村隔離病舍位置を協定し玆に新築工事落成す
本村水源調査をなし各所に横井堀鑿を奬勵す
大芝原其他道路各關係者に協議し路線を直線に改修す
共有各山野整理分割協定成立す

本村役場位置を現地に協定し茲に役場を新築す
村長辭任の際は村及各種團体より鄭重なる記念品を贈らる
大正三年九月愛國婦人會上伊那幹事部委員となる
同三年十月赤十字分區委員となる
同四年三月本村農會長となる
同四年九月信濃山林會委員となる
同四年十一月御大禮記念章を賞勳局より授與せらる
同四年十一月御大禮に付饗饌を賜はる
同五年一月長野結核豫防協會地方委員となる
同五年一月愛國婦人會員募集方長野支部長より依囑せらる
同五年三月明治神宮奉賛會上伊那郡部委員となる
同五年五月上伊那產牛馬畜產組合第五區長となる
同六年十月在鄕軍人會西箕輪分會名譽會員となる
同年同月同會顧問を嘱託せらる
同六年十二月恩賜記念事業資金募集依囑せらる
同七年三月上伊那佛敎會賛助員となる
同七年四月愛國婦人會賛助員となる
同七年九月西天龍耕地整理組合委員となる
同九年九月明治神宮奉賛會通常會員に列し奉賛章を賜はる
同十年十月曹洞宗敎育興隆會賛助員となる
同十一年一月以來農家小組合長として再選現任
同十一年三月村社熊野社拜殿渡廊下等建築委員長となり。社地擴張目下工事進捗中
同十四年四月村會議員當選現職中
明治卅四年五月信濃敎育會上伊那部會長より感謝狀を賜はる
同三十九年四月（三十七八年戰役の際）尙武會委員及總代として活動し各方面へ寄附したるに付縣知事より賞狀三通木杯一個を賜はる
同卅九年四月消防組小頭に就職以來十年以上の故を以て村長より表彰せられ木杯一個を賜はる
同卅九年九月學校建築費の內へ金員寄附したるに付縣知事より木杯一個を賜はる
同四十年十二月長野警務長より消防に付功勞證書を授與せらる
同四十一年十月大日本消防協會々頭より表彰せらる
同四十一年十一月本村長より消防に付功勞證書を附與せらる
同四十一年十二月上伊那消防同盟會長より木杯一個を賜はる
大正二年三月產業組合上伊那郡部會長より表彰狀に副へ火鉢一個を賜はる
同四年十一月長野縣知事より繭三等賞受領
同四年十二月赤十字社上伊那委員部より感謝狀を賜はる
大正五年一月日本赤十字社長より謝狀を賜はる
同年同月同上伊那委員長より感謝狀に副へ金蒔繪硯箱

明治廿八年四月より卅四年四月迄村會議員
同三十年四月より同三十二年四月迄村學務委員
同卅二年八月より同卅四年三月迄助役
同卅四年三月より同卅五年二月迄村長
同三十七年四月より大正二年四月迄村會議員
同二年十二月より現在村社氏子總代
大正六年四月より同十年四月迄村會議員
同八年十月より同十三年三月迄郡會議員
同十年十二月より同十四年十二月迄村長
大正十年十月より現在迄村農會長村長在職中
赤十字社分區委員たり

西箕輪村三七八番地

## 小坂梅吉君



一個を賜はる
同年同月同赤星長野支部長より謝狀に副へ木杯一個を賜はる
同六年十二月明治神宮奉賛會會長より感謝狀を賜はる
同七年三月衛生功勞者として縣知事より表彰せらる
同七年四月愛國婦人會長野支部長より會務に盡力せし廉を以て木杯一個を贈らる
同年同月愛國婦人會長より會務に盡せし廉を以て謝狀を賜はる
同七年五月中央報德會理事長より謝狀を賜はる
同七年十一月米價騰貴の際救濟資金寄附せしに依り縣知事より木杯一個を賜はる
同七年十二月長野縣知事より繭四等賞受領
同八年十月同縣知事より赤松種子三等賞受領
同九年十一月新潟縣知事より赤松種子四等賞受領
其他社寺及各種方面及品評會等より謝狀及賞狀を受けたること十四通なれども長文に亘るを以て詳記省略す

西箕輪村一二四八番地

## 小坂宇之助君

明治十三年四月十一日を以て生る
明治四十一年吹上區長勤務
同四十二年十二月廿日より大正五年二月七日迄消防組小頭
同五年二月七日より同七年二月廿三日迄同上部長
大正四年養蠶組合長
同七年より十年迄神社氏子總代
同十年より十三年迄村會議員
同十三年吹上區長
同十四年十二月より神社氏子總代現職中

元治元年二月十日を以て生る
大正六年聯合衞生副組合長當選
大正八年中條區長當選
大正十年四月十六日村會議員當選
大正十四年四月十五日退職

西箕輪村三七七番地
尾崎米太郎君

西箕輪村一五七三番地

陸軍歩兵中尉從七位勳六等　唐澤房直君

明治十年四月三日を以て生る

陸軍教導團卒業

明治三十一年歩兵二等軍曹。歩兵第一聯隊附同卅二年歩兵軍曹。同卅四年清國駐屯軍司令部附北京天津駐在。卅四年任陸軍歩兵曹長。參謀部附。天津普通學堂教師囑託。同三十七年特別機密任務に服す。三十七年叙勳八等。卅八年二月任陸軍歩兵特務曹長。歩兵第一聯隊附。三十八年日本人青年會夜學部清語卒業。日露戰役出征の爲め天津出發野戰歩兵第一聯隊附。奉天附近の大會戰に參與歩兵第一聯隊小隊長。卅八年五月任陸軍歩兵少尉。同年正八位に叙せらる卅九年凱旋。歩兵第一聯隊附。叙勳六等旭日章授與。卅七八年戰役從軍徽章授與。四十年十二月任陸軍歩兵中尉。四十一年從七位に叙せらる。台灣歩兵第一聯隊附台北並に台中駐在、四十二年二月豫備役。四十二年十二月西箕輪在鄕軍人團長。四十三年帝國在鄕軍人會西箕輪分會長。四十四年在鄕軍人會上伊那聯合分會副長。大正二年同上大正六年十二月西箕輪消防組頭。大正十年西箕輪村會議員。區長。區會議員學務委員。小學校建築委員。西箕輪小學校教育費へ寄附。赤十字社終身社員。消防同盟會特別會員。帝國在鄕軍人會長より表彰二回、西箕輪村より表彰二回、北清事變望遠鏡一個下賜。日露戰役の功に依り金四百圓下賜

西箕輪村四八五番地

陸軍歩兵特務曹長
從七位勳七等

## 唐澤多賀太郎君

明治二十年二月五日を以て生る
明治四十年十二月一日徴兵として歩兵第六十聯隊へ入隊同四十一年十二月三十日附上等兵、同年十二月十日附伍長勤務上等兵、同四十二年五月廿七日臨時韓國派遣の爲め屯營出發、同月二十九日廣島着、同月三十日宇品出帆、六月一日韓國釜山寄港、同月三日韓國群山上陸、同月五日群山出發、同月六日韓國全洲に到着、同地守備の爲め滞在、同年十一月十九日守備地出發、全羅北道回文山附近の暴徒討伐に從事し、同年十二月十二日守備地歸隊、同年十二月一日附任陸軍歩兵伍長明治四十三年一月三十一日待從武官巡視に際し酒肴料として金貳拾五錢を賜る、同年八月二十九日、日韓併合守備地交代移動の爲め十月廿四日全羅北道全洲出發十一月五日江原道平昌着、同日同地守備、十二月一日給一等給、明治四十四年三月廿四日守備地交代移動の爲め平昌出發、同月廿八日麟蹄着、同日同地守備、四月十六日內地皈還の爲め守備地出發、同月廿三日仁川着、同月二十五日仁川出帆、同月廿九日宇品上陸、五月一日屯營着、明治四十四年八月一日任陸軍歩兵軍曹同四十五年三月廿二日通信術修業、大正元年十二月一日給一等給、大正二年十一月十七日酒肴料として金五拾錢下賜、同三年機關銃修業、同年五月六日給二等給大正四年十一月三十日給一等給、同六年十二月三十一日任陸軍歩兵曹長、同七年十一月十八日酒肴料として金五拾錢下賜、同年十二月三十一日給二等給、大正九年四月一日朝鮮歩兵第七十六聯隊附、同日聯隊本部附、同日給一等給、四月十六日大坂港出帆、四月廿一日清津港上陸四月廿一日着隊、十月五日より十二月卅一日迄間島事件に關する勤務に從事し、十二月四日より荷物宰領者として支那間島百草溝へ出張、同月十四日皈隊、大正十年十月五日任陸軍歩兵特務曹長、同日第二守備隊本部附、大正十一年八月十五日機關銃隊附、同年三月八日給二等給、同十三年三月十日給一等給、大正十三年十二月十一日附豫備役編入
大正九年八月一日韓國併合記念章授與、
明治四十一年十月二十日第三種射擊徽章明治四十二年十月二十五日第二種射擊徽章、大正三年十月三十日第一種射擊徽章附與せらる
大正六年九月二十五日勳八等瑞寶章
大正九年五月十九日下士勤功章
大正九年十二月廿五日大正四年乃至九年戰役の功に依り金百三十圓を賜大正三年乃至九年戰役從軍記章を授與せらる
大正十二年十二月廿五日勳七等瑞寶章



西箕輪村

## 唐澤喜元太君

明治三十八年四月より同四十三年三月迄六ヶ年間西箕輪村學務委員勤務
明治四十三年四月より大正六年三月迄滿八個年間西箕輪村會議員勤務
大正六年より同八年迄上伊那郡農會議員勤務

西箕輪村一六番地

## 唐澤辰治郎君

大正十二年四月西箕輪村農會選出上伊那郡農會豫備議員當選
大正十四年五月三十一日西箕輪村學務委員就職現任
西箕輪村消防組部長現任

明治十四年四月一日を以て生る
明治三十七八年日露戰役に際し樺太に出征す
同四十二年より消防小頭及部長勤務
大正九年迄滿十二ヶ年勤續す
大正十一年區長勤務
同十二年村農會總代勤務
同十四年村會議員に當選現職中
其他區會議員として二十ヶ年餘勤續す
勳八等瑞寶章を賜る

西箕輪村一〇九七番地
春日清司君

西箕輪村三九七番地

## 唐澤勝彌君

西箕輪村消防組部長

西箕輪村在郷軍人分會理事等

公共の爲めに盡力せること尠からず

西箕輪村二二四番地

## 山口兼太郎君

安政六年二月二十日を以て生る

明治三十一年二月より一ヶ年西箕輪村役場書記就職

同三十二年より同三十五年迄同收入役勤務

同卅六年より同卅八年迄同助役勤務

大正十年より同十三年迄學務委員勤務

目下會社員重役たり

文久三年十月二十日を以て生る
明治二十年十一月十九日西箕輪村役場筆生拜命
同廿三年學務委員に當選
同廿六年西箕輪村會議員當選
同三十二年西箕輪村會議員當選
同三十二年西箕輪村消防組頭拜命
同三十六年西箕輪助役に當選
同四十年五月西箕輪村長に當選
同四十二年六月西箕輪村衛生聯合組合長當選
大正二年四月西箕輪村會議員に當選
明治三十年有限責任中會根信用組合理事となる
大正六年株式會社丸中大正館製糸場社長となる
尙郡農會代表者會議員となり盡力せることあり其他大小の公務に鞅掌せること枚擧に遑あらず

西箕輪村三三番地

## 小林豐吉君



西箕輪村

## 小林定一君

明治十三年七月三日を以て生る
明治三十三年十二月一日近衛師團野戰砲兵第十五聯隊へ入隊、被服委員、新馬調教委員、新兵教育係等奉職
明治三十七、八年戰役の爲め第二軍奥大將の旗下に屬し、同三十七年三月十四日字品出帆、清國盛京省張家屯に上陸、野戰砲兵第一旅團經理官として南山得利寺復洲熊岳城蓋平大石橋海城鞍山店遼陽貴子山三塊石山沙河奉天清水台鐵嶺開原昌圖等各戰役參加其間順次累進し、猶勳功により勳等を賜はる平和克復の後近衛步兵第四聯隊附となり、勤務精勵、明治四十一年六月三日中央政府の命により、日清韓三國政府よりなる木材廠整理委員として滿韓露の三國に出張、明治四十一年六月十九日字品出帆、同年六月廿七日韓國咸鏡北道清津港に上陸、韓國羅南會寧經由露國滿洲を經由清國安東縣より韓國新義洲に渡り、明治四十一年十二月十一日門司歸着、其間木材廠の複雜繁多なる大事業の日露戰役後一層煩雜たる事務を整理し、同年十二月十五日陸軍省出仕となる、木材廠整理委員として其功勞大なるを以て記念品恩賜金慰勞金を賜ふ
明治四十二年五月近衛師團司令部附に補せられ近衛師團軍樂隊附兼勤
明治四十四年十二月一日依願退役其間の功勞により恩賜金並に紀念品を賜はり、陸軍軍人恩給法により恩給を賜る、明治四十五年明治天皇陛下崩御に付御大葬の爲め參列仰付けらる
明治四十五年三月在鄕軍人會西箕輪分會副長となり、一意專心分會の爲めに盡し大正九年三月辭職す
大正元年消防組役員勤務、區會議員當選數回重任
大正三年三月より大正八年二月に至る迄西箕輪村收入役勤務、其間勤務精勵村治の爲めに十年一日の如く洛勤能く責任を重じ時の村長と計り村民を鞭韃督勵し、吾國二大義務の內兵役の義務は能く國民嚴守するも納稅の義務は未だ兵役の義務の比にあらざるを說き、兵役の義務同樣納稅の義務も納期に遲れざる樣嚴守されたしとて納稅組合等を組織し其他村治の爲め徹底的に努力せし効果ありて時の上伊那郡長橫尾、堀江其他長井、安藤郡長等より旌表せられたる事屢なりき、
大正八年區長に當選
大正九年十月國勢調査員任命
同十年三月產業統計調査員任命
同十年より十三年十二月に至る區會議員重任
同十四年四月西箕輪村會議員に最高點を以て當選
同十四年三月產業統計調査員重任
同十四年十月第二回國勢調査員任命

西箕輪村

## 山中金治郎君

明治四十一年收入役勤務
大正十年學務委員勤務
大正十五年消防組頭に就職現職中

西箕輪村

## 小林民彌君

明治二十年六月十九日を以て生る
大正八年消防組部長勤務
大正十三年西箕輪消防組頭代理就職在職中の功勞に依り本縣警察部長及上伊那消防同盟會より特別功勞賞を授與さる
大正十年區會議員當選今日迄引續在職中
其他富士生命保險會社代理店精米所等を經營し社會奉仕の爲努力しつゝあり



西箕輪村大萱七三八九番地

## 小松清治君

明治九年十二月廿四日を以て生る
明治三十七年四月西箕輪村消防組大萱部小頭に任命され、引續き明治四十四年九月部長に補せられたり
大正四年四月其職を辭す
大正五年四月より區會議員となり後再選現に其職にあり
大正七年區長代理
大正十三年區長勤務
同九年より山野委員となり、後再選現に其職にありて、共有山野分割整理に努力しつゝあり
大正十四年四月十六日村會議員に當選現任中

西箕輪村四七一三番地

勲八等 有賀今朝松君

明治十四年十二月十九日を以て生る
明治卅六年三月十八日より同三十七年三月卅一日迄西箕輪村役場書記勤務
大正九年十二月二十日より同十一年三月三日迄西箕輪村役場書記勤務
大正十一年三月三日より同十四年三月十四日迄西箕輪村收入役勤務
大正十四年四月十六日村會議員當選現任中



西箕輪村四七五八番地

有賀德重君

明治二十二年九月廿九日を以て生る
大正九年第一回國勢調査員となる
同九年上戸區長勤務
大正十年四月十六日西箕輪村會議員當選
同十四年四月退職

明治十八年九月十日を以て生る
大正三年一月西箕輪村消防組吹上部小頭
同四年吹上區會議員當選引續き今日に至る
同六年吹上區長勤務
同七年西箕輪役場建築委員となる
大正九年二月消防吹上部長に補せられ
大正十二年一月辭職
同九年七月第一回國勢調査委員となる（內閣任命）
同十年西箕輪村學務委員當選
同十四年四月西箕輪村會議員に當選現任中

西箕輪村九一九番地

**有賀一十君**



西箕輪消防組頭
大萱區長
西箕輪村衞生組合副長
其他村及區の公共事務に盡瘁する所尠からず

西箕輪村

**三澤龜五郎君**

明治十年九月二十七日を以て生る
大正十四年四月十六日村會議員當選現任中
其他村及區の公共事務に盡瘁せるところ尠からず

西筧輪村

## 白鳥定吉君



西筧輪村三〇七番地

憲兵上等兵　柴　角一君

明治十九年三月十五日を以て生る
明治四十三年三月十五日憲兵となり久留米憲兵隊大村憲兵分隊附
同四十五年六月七日台灣憲兵隊花蓮港分隊卑南分遣所に轉勤
大正三年十一月六日朝鮮全羅北道全洲憲兵隊裡里分隊龍安派遣所附
大正四年赤十字社員となる
同五年六月十一日執達吏事務取扱
同五年十一月帝國在鄉軍人會後援會員となる
同八年七月朝鮮憲兵制度改正に依り解職同時に朝鮮總督府道巡査拜命
大正八年九月一日巡査部長任命同時に全羅北道警務部裡里警察署熊浦警察官駐在所附、同年十一月同道高敞郡下蓮警察官駐在所附
大正九年三月二十五日家事の都合上辭職、同十一年三月七日西筧輪村役場書記、同年三月二十日西筧輪在鄉軍人分會副會長、同年九月十五日土地調査員
同十二年八月二十日西筧輪在鄉軍人分會長
同十四年三月三十一日役場書記辭職、大正十二年八月大正三年乃至九年の戰役の功に依り從軍徽章及一時賜金下賜さる、同十四年十一月產業統計調査員、同十五年一月區會議員
明治四十三年七月二十日犯罪檢擧に依り憲兵隊長より賞與、大正元年善行證附與、大正七年八月人命救助に依り朝鮮總督府警務總長より賞與、大正八年七月下士適任證附與せらる

西箕輪村三一五二番地

## 鈴木鶴十郎君

明治五年五月十四日を以て生る
明治三十六年及大正四年羽廣區長就職
明治四十二年五月西箕輪村助役に就職同四十四年八月退職
明治四十二年七月赤十字社西箕輪分區委員兼職同四十四年八月退職
明治四十三年五月西箕輪消防組組頭任命大正三年八月退職
大正六年四月西箕輪村會議員當選就職同十年四月滿期退職
同五年六月中箕輪村箕輪生糸販賣組合監事當選就職大正八年西箕輪村株式會社廣輪舘製糸場設立に付退職
大正八年六月西箕輪村株式會社廣輪舘製糸場創立總會に於て取締役社長に當選就職同十二年退職
明治四十二年日本赤十字社上伊那郡委員部第三回社員總會開催に付同本部支部委員部より謝狀記念品拜受
大正二年十一月長野縣警察部長より消防組頭功勞證を受く



西箕輪村四七三九番地

## 鈴木義直君

大正六年上戸區長勤務
其他消防組部長及大小の公務に參與すること尠からず

西箕輪村五四三番地

## 澤田豆太郎君

文久元年二月二十二日を以て生る
寺子屋を初め學校と稱して机を携へて入學し、而して筑摩縣學務課渡邊千秋氏より扇子一本賞與として拜受したることあり
明治三十七年六月より同四十三年九月迄西箕輪村役場書記勤務、戸籍事務及郡農會地方事務員を兼ねたり、退職に際し村の退隱料條例第二條により金員を賞與さる
明治二十四年同三十四年耕地總代を勤め、尙田用水井掛總代數回を勤め、大正十一年同十二年同十四年に渉り農家聯合組合長を勤む

伊那町大字伊那三二九五番地

## 原　三德君

明治二十二年一月九日を以て西箕輪村に生る
內務省醫術開業試驗に及第伊那町に於て開業せられ令名あり
大正九年三月長野縣立伊那中學校々醫囑託となる



伊那町大字伊那部五一六番地

正八位勳六等

## 池上祐治君

慶應二年八月三日を以て美篶村に生れ、入りて池上家を嗣ぐ、同家は舊家にして代々名主役を勤め、祖父吉右ェ門君は高遠藩主より帶刀を許されたる人なり
東京醫學專問學校卒業內務省醫術開業試驗に及第、東京醫科大學內科教室に於て內科學を專攻し、明治二十九年九月現住地に於て醫術開業
明治三十二年四月より上伊那農業學校校醫を囑託せられ現在迄勤續
同三十三年八月長野縣上伊那郡檢疫委員囑託同十二月解囑、同卅四年四月上伊那看護婦講習會講師囑託同七月解囑同三十五年四月より大正十三年に至るの間に於て、前後七期十四ヶ年間上伊那醫師會長勤務
明治卅五年四月より大正十五年迄の間に於て前後六期十二年間長野縣醫師會議員勤務
明治卅七年より三十九年迄及大正十三年より十五年迄二期四ヶ年長野縣醫師會理事勤務
同卅八年二月日露戰役の爲め召集せられ陸軍軍醫勤務
同三十九年四月より四十三年迄及大正四年より大正六年迄八ヶ年間伊那町在鄕軍人會長勤務
同四十一年伊那町聯合衛生組合長當選同四十二年辭任
同四十年十月忠愛顯彰會長野縣上伊那郡委員を囑託せらる
同四十年十月美篶小學校々醫を囑託せられ大正五年四月辭職
明治四十二年二月伊那町電話架設創立委員勤務
同四十四年十月より大正四年迄上伊那郡會議員勤務
大正四年九月より同八年迄長野縣會議員勤務
同六年より長野縣結核豫防協會評議員及同講話委員勤務同十一年五月より同十二年六月迄伊那消防組々頭及上伊那消防同盟會評議員並に長野縣聯合消防同盟會議員勤務
大正十二年七月より伊那町方面委員現任中
明治三十七八年役從軍者家族患者施療の爲め木杯一個下賜大正七年米價騰貴救濟の爲め金百圓寄附により賞勳局及縣知事より各木杯を下賜せらる、其他學校、警察署遞信省等より寄附行爲の爲め木杯を賜はりたること數回

## 池上喜雄君

明治三十八年十二月より四十年一月迄町農會幹事勤務
同四十三年日影區長代理勤務
同四十四年同區長勤務
大正四年三月より六年三月迄伊那町農會評議員勤務
同十年四月より十四年四月迄伊那町會議員勤務
同十四年八月第二回國勢調査委員任命
其他町及區の公共事務に盡瘁する所尠からず





## 市原德重君

大正十一年伊那葬儀會社を創立社長となり現在に至る
伊那建具商組合顧問に推薦せらる
大正六年より十三年迄坂下區會議員勤務
伊那消防組坂下部長勤務
大正十四年四月伊那町會議員當選現任中

慶應三年八月十一日を以て生る
明治二十三年伍長總代
同三十三年津島社氏子總代
同卅五年消防組役員
同卅六年四月より三十七年十二月迄日影區長代理者勤務
明治三十八年一月より十二月迄日影區長
大正四年伊那東大社氏子總代となる
大正七年五月より同九年四月十五日迄伊那町收入役勤務
大正八年より同九年四月迄赤十字社收入委員
其他區役員山野委員數回勤務

伊那町七八二番地

## 堀米金治君



伊那町

## 小川彌作君

明治十八年十一月二十六日を以て、東筑摩郡入山邊村宮原に生る、父君は山家薩摩守の後裔と稱する原山十郎次氏にして君は其二男なり、長じて小縣蠶業學校に學び、又早稻田大學校外生たり、明治四十年出でゝ小川氏を嗣ぐ、小縣在學中漢學塾に學ひたることあり、天性文學を好むが爲め種々の出版事業に關係す、明治四十一年松本市に於て發行する信濃日報記者となり、政治及社會の爲めに活動し、同四十三年名古屋市に於て發行する名古屋新聞社員となり、同社松本支局に勤務す、大正三年再び信濃日報社に入り、伊那支局長として伊那町に在住、爾來伊那町に於て發行する伊那日報の編輯に與る、大正八年伊那日報社が株式合資會社組織となるに及んで同社編輯長となり、專ら社會公共の爲めに盡瘁す、　同十年同社の塩原行業務執社員不在となるや留守居役として同社の經營に努力す、時に偶々同社に紛擾あり、君の語る所に依れば「同社株主中重役連に同社乘取りの野望を抱くものあり、塩原氏の不在に乘じ種々惡策を廻らしあらゆる壓迫と威嚇を以て留守せる予等を苦しめ、幾度か窮地に陷れんとしたが一旦留守を引受けたる予は敢然として之に對抗し、壓迫を排除し自己の利害を顧みず寢食を忘れて社の維持に努め、遂に彼等の惡策を打破し、日報社をして今日あるを得せしめたり」と大正十年十一月中伊那電氣鐵道會社の電燈電力不足の爲一般需要者に不平あり、時の南信毎日新聞主幹柄澤鶯村君と共に同會社に交渉の上賠償をなさしめ、上伊那電燈需要者組合を組織して今日に至り、大いに需用者の爲めに努力しつゝあり大正十二年一月伊那日報社を辭し、名古屋新聞伊那支局長兼東京日日新聞大阪毎日新聞伊那通信所主任となりて、政治教育其他社會事業の爲に貢献しつゝあり、大正十一年一月伊那日報社監査役となり、同十四年伊那町荒井區會議員となる。

伊那町九三三番地
勳八等 河野國十郎君

安政二年五月二十四日を以て生る
明治十三年五月上伊那郡伊那部學校世話掛被申付、同年十月伊那部村戸長役場筆生被申付、同十五年五月辭職、同十六年九月伊那部村村會議員當選、同十八年三月十八日伊那村外二ヶ村戸長役場筆生被申付、同二十年十一月十日辭職、同二十二年三月二十九日伊那村會議員當選、同二十四年伊那村下新田耕地總代當選、同二十五年三月二十八日村會議員滿期、同二十五年四月五日伊那村書記當選、同二十八年七月十日伊那村助役當選、同二十九年九月九日辭任、同三十年下新田耕地總代當選、同年六月二日伊那村典春近村組合會議員當選、同三十一年七月伊那町助役(有給)當選、同四十年迄勤續し辭職、同四十一年三月二十九日同郡西箕輪村助役(有給)當選、同四十二年四月同村長(有給)當選、同月同村農會長當選、大正元年五月十九日同村長並村農會長辭任解職、同二年三月二十九日伊那町會議員當選、同三年十一月二十四日伊那町助役當選、同七年五月六日伊那町長當選、同月同町農會長當選、同八年二月十三日同町長並同町農會長辭任、其間明治四十四年十一月上伊那郡役所より岐阜外六府縣の行政事務視察を命ぜられたることあり、大正七年米價騰貴の際救濟金貳拾圓を寄附し、其賞として本縣知事より木杯一個を下賜せらる

伊那町一八一九番地
小澤兼太郎君

明治十九年一月十日を以て生る
明治四十二年十月三十日日本赤十字社終身社員、大正二年三月五日伊那町產業組合山寺區農事組合長、同六年十一月八日町是調査會幹事、同七年十月十日郡是調査會幹事、同九年七月二十日內閣國勢調査員命ぜらる
伊那町第一回衞生組合長
大正十一年一月二十日山寺區長代理、同十一年三月二十六日縣稅戶數割賦課資力調査委員、大正三年より山寺區會議員現任中、同十四年三月三十日伊那町現町會議員に當選、
伊那町發展を期す爲め亡父善治郎氏の盡力と共に移住民住宅難の救濟方法として建築したる貸家二十有餘戶を有し又專ら伊那町町道改修の爲努力し伊那町北部より天龍川を越へ手良村に通ずる豫定郡道の爲盡瘁し其際衆望の認むる處あり天龍川橋水神橋渡初祝として父善治郎及兼太郎二ヶ夫婦と兼て北原庄三郎氏父夫妻と併せて三夫婦を以て渡初の光榮を得たり、尙伊那電氣館建設に盡力し現在同會社の取締役に就任し居り又政界に於ても上伊那憲政倶樂部評議員たり
第一回國勢調査記念章を授與せられ
上伊那消防同盟會より表彰狀並に記章を授與せらる

伊那町
唐澤盈三君

大正十三年古町區長勤務
同十年四月伊那町會議員に當選
同十四年四月再選現に其職にあり
其他公共の事務に盡力せしこと尠からず

伊那町

## 田畑万太郎君

明治三十一年五月より三十二年五月迄伊那町助役勤務
同三十七年四月より同四十三年四月迄伊那町會議員勤務
同三十九年七月より四十年五月迄伊那町長勤務
大正二年四月より六年四月迄伊那町會議員勤務
大正二年十月上伊那郡會議員當選
同四年十月滿期退職
同三年七月より七年七月迄伊那町學務委員勤務
同八年小澤區長勤務
同五年九月伊那生糸販賣組合創立せらるゝや推されて組合長となり
六年四月迄勤務
其他町及區の公共事務に盡瘁せる所尠からず



伊那町

## 田畑文一郎君

大正五年小澤區長勤務
同六年一月より十二月迄伊那消防組小澤部長勤務
同六年四月伊那町會議員當選
大正十年四月再選現任中
同十一年小澤區長代理勤務
同十二年小澤區長勤務
其他町及區の公共事務に鞅掌する所尠からず

伊那町

## 田中稲雄君

明治三十九年十一月より四十年十二月迄伊那町役場書記勤務
同四十五年上牧區長勤務
大正六年四月伊那町會議員當選勤務
同十年及十四年再選三期連續現任中勤務
同十二年五月より十三年五月迄伊那町助役勤務
同十年十二月より現在伊那町學務委員
同十五年伊那町土木委員現任中



伊那町

## 田中文吉君

伊那町入舟町に時計並に貴金屬商を經營し奮闘の功空しからず今や本郡斯業界の覇者たり
明治二十五年より同四十二年迄連續坂下區會議員となり商工會設立以來大正五年迄評議員となり明治三十八年坂下區長となる
大正十年三月伊那町會議員に選出され十四年滿期迄就任し其間學務委員となり克く其職を全ふせらる
大正十四年十月國勢調査委員に任命せらる

伊那町西町五五九三番地

勳七等功七級

## 中村宗助君

明治七年十二月十五日を以て生る
明治卅七八年戰役に從軍任陸軍歩兵軍曹
同三十七八年戰役の功により勳七等青色桐葉章及功七級金鵄勳章從軍記章を賜はる
同三十九年伊那消防組西町部長を命ぜらる
同四十一年上伊那賣藥業組合副長當選
同四十二年伊那町聯合衞生組合副組合長當選
同四十三年伊那町西町區長當選
同四十四年西町區會議員當選
大正八年伊那町西町區長當選
同九年西町區會議員當選
同十二年南信藥業組合上伊那支部副組合長當選
同十四年伊那町會議員當選現任中

明治四十四年より大正九年四月迄伊那町役場書記勤務
大正九年四月伊那町收入役に選任せらる
大正十三年四月再選現任中

伊那町

武田光治郎君



上伊那甲種農學校卒業
大正九年日影區長代理勤務
大正十年日影區長勤務
大正十四年四月伊那町會議員當選現任中
大正十四年六月伊那町助役に當選就職現任中

伊那町

中村勝衛君

伊那町三四四八番地

## 薄葉正二君

君は高遠藩士天野雅雄氏の二男にして、元治元年正月二日長藤村的場に生る

實兄を天野五三と云ひ、長く教育界に盡瘁せらる、小弟一人壯時に歿し、一妹あり陸軍砲兵中佐上島善重氏に嫁し健在、君少壯にして高遠藩醫薄葉氏を嗣く、薄葉家の祖先は遠く磐城國多賀郡に在り、世々醫術を以て業とす、君少時東京に遊學せられ、明治二十五年內務省醫術開業試驗に及第し、爾後更級郡稻荷山町に醫術を開業し、其の間地方衛生に盡瘁し、明治三十年北里傳染病研究所が國立傳染病研究所となるや、卒先其の門に入り、大に細菌學を修め第一回卒業生となる、明治三十一年大坂市にペスト蔓延するに當り、撰拔せられて大坂府に檢疫官となる、惡疫鎭定と同時に其職を辭し歸稻し、中央線鐵道工事に當り支岐組の囑託醫となり、姥捨冠着間の工事中大いに其の威力を振ふ、明治三十九年伊那町に移轉し、內科小兒科を專問として現今醫術に專念從事せらる、其の間小學校醫を担任せらるること實に十年、伊那町藝妓酌婦の健康診斷に從事すること十年、現在上伊那郡醫師會の副會長たり

明治四年四月六日を以て生る
明治二十八年境耕地總代當選
同三十一年伊那消防組小頭任命
同三十三年伊那町傳染病豫防委員當選
同三十四年伊那消防組伊那部長任命
大正十一年境區長當選
同十年伊那町會議員當選就職
同十四年四月再選現任中
其他町及區の公共事務に鞅掌する所尠からず

伊那町

## 大瀨木鹿十君



明治三十年九月より三十一年八月迄伊那町消防部長勤務
同三十一年四月より三十二年三月迄伊那町學務委員勤務
同三十四年四月より四十年四月迄伊那町會議員勤務
大正二年四月より六年四月迄同上
大正三年荒井區長勤務
大正四年七月より六年四月迄伊那町長勤務
同上より七年七月迄伊那町農會長勤務
大正八年三月より九年一月迄學務委員勤務
其他町及區の公共事務に鞅掌し又大綿屋銀行を經營し、上伊那銀行に重役たりし等、地方經濟界に貢献せられたること尠からざりし

伊那町故

## 熊谷修一郎君

伊那町三六二四番地
故 熊谷慶治郎君

慶應元年五月二十日を以て生る
明治二十八年三月三十日伊那村一級村會議員に當選す、時に年齢三十二歳
明治三十六年荒井消防組部長に就任す
明治四十年伊那町會議員に當選す
同四十一年上伊那消防組同盟會員に推薦せらる
同四十二年一月荒井區長に再選す、同時に耕地總代となる
同四十三年十月伊那町助役に就任す
同四十四年三月三十一日伊那町農會副會長に當選
同四十四年十月伊那町消防組頭に就任す



伊那町
故 熊谷又七朗君

明治四十三年荒井區長勤務
同四十三年四月伊那町會議員當選
大正二年四月滿期退職
大正八年より十一年迄伊那町商工會長勤務
大正十年四月再び町會議員當選在職中死亡
其他營業税調査委員たりしことあり、又官製煙草元賣捌所を經營せられし等、事績鮮少ならざりしも其資料を得る能はざりしを遺憾とす

## 伊那町　久保村安太郎君

明治二年五月十四日を以て生る
大正元年より引續き伊那町坂下區會議員勤務
大正元年より引續き坂下商工團評議員勤務
大正二年度坂下區長勤務
大正七年十月より十年一月迄伊那消防組坂下部長勤務
大正六年四月伊那町會議員に當選、同十年三月滿期退職
大正六年より十一年迄連續入舟實業團長勤務
同八年より十一年迄伊那町商工會副會長勤務
大正十二年より十三年迄同會長勤務
大正九年内閣より國勢調査委員任命せらる
大正十四年度より伊那町商工會相談役として現在に至る
尚同君は伊那町入舟町に於て同町有數の呉服店を經營し、傍ら赤十字其他社會事業に貢献し、益々事業の發展を期せられつゝあり



## 伊那町三六二八番地　矢野善太郎君

明治十年十一月十日を以て生る
明治二十二年上伊那高等小學校卒業
明治三十二年伊那町字元町々代就任、同年明十橋より堤防を里道とし西箕輪線を開鑿す
同三十三年往年荒蕪地たる原河原の一部を買受け、一部は鍬下年限にて借受け、都合四回に亘り石堤を出願し、縣費補助を受けて熱心開拓に從事せられ遂に今日の桑園、上田或は宅地等を得るに至れるは全く君が努力の賜なりと
電車停留地設置堤防委員山野統一等の委員に從事す
同三十八年水道事業に着眼し尚多數にて使用せる爲明治四十四年共同水を引用し以來今日に至る其間十六年間會計の任に當る
同三十六年消防組小頭選任以後二回再選、明治四十二年荒井部長選任、大正元年再選同年組頭代理に選任、同二年退職此間郡役所前に消防詰所及警鐘台を建設す
自明治四十三年至大正二年上伊那消防同盟會幹事に推選さる
自大正八年至大正十一年伊那町元町火防組合長となる
自大正十年至大正十三年荒井豫備組取締となる、尚元評議員現在區會議員都合八回、其他各委員となる
大正八年荒井區長に就任し大火後非常道路並に町發展の爲道路を開く、同年多年宿望の神社合併に力め同年指令を受け敷地買收、地均、地形等をなす
料理屋專業組合を組織し同年より組合長を十回、評議員七回、明治四十三年料藝二業組合創立同年より組合長六回、副組合長六回、評議員四回選任
自大正四年至同八年縣同盟會幹事並に縣郡聯合會評議員に選任
自大正七年至同九年商工會評議員に選任
大正九年荒井神社建築委員長となり建築に力む
自大正八年至同十二年商工會幹事に選任
大正十四年伊那町元町實業團を創立し團長に推され又商工會幹事となる
同年町會議員當選現任中

### 褒賞

明治三十八年消防組督勵法施行前に伊那町長より木杯並賞狀同年當町長より大日本消防協會普通會員の賞を受く同四十二年伊那署より同會特別會員の賞を受く同盟會より第一回の功勞者に推選され同會並警察部長組頭より數回に亘り賞與さる同四十一年大日本消防協會頭正二位勳一等伯爵芳川顯正殿より感謝狀並に木杯一個を賞與さる
大正二年消防部長退職に際して荒井部より謝狀並に仙臺平袴贈らる同三年伊那消防組より柱大時計贈らる

## 松澤一郎君

明治二十年を以て生る
明治四十三年伊那町東青年會幹事長に就任
大正五年伊那町青年會副會長に就任
同六年伊那町東青年會長に就任
同七年伊那町青年會長に就任
同八年上伊那郡聯合青年會副會長就任
同九年伊那町農會評議員當選
同年長野縣米穀節約奬勵委員拜命
同年伊那町役場書記に選任せられ、收入役代理を命せらる
同十年有限責任伊那町生糸信用販賣組合監事當選、同十二年滿期の處再選
同十四年保證責任伊那町生糸信用販賣組合監事當選現職中
父君故松澤龜五郎君は慶應元年生にして明治二十六年下新田耕地總代となり、同二十八年伊那町役場書記に選任せられ、同三十一年及同三十五年大正元年下新田耕地總代に選任せられ、大正六年有限責任伊那町生糸販賣組合監事に當選、同八年下新田區長に當選、同九年第一回國勢調査委員となり、同十年伊那町會議員に當選就職せる等、町及區の公共事務に盡瘁せる所尠からず





## 福澤伊那太郎君

明治二十二年四月伊那村會議員當選、同二十八年三月迄勤務(現在の伊那町)
同二十七年五月伊那消防組部長を命ぜられ、同二十九年九月迄勤務
同三十五年三月伊那町長に當選、就職三十八年二月辞職
同四十年五月再び伊那町長に就職同年九月退職(町農會長兼務)
同四十年十月上伊那郡會議員に當選、同十一月郡會議長に當選、四十四年十月滿期退職
同四十年十月又伊那町長に就職、同四十三年八月迄勤務
同四十一年一月伊那町農會長に就職同四十四年迄勤務
同四十一年三月伊那消防組頭に就職、大正元年五月迄勤務
大正二年四月伊那町會議員に當選、同六年四月再選同十年四月滿期退職
大正三年山寺區長勤務
同年三月伊那郡農會議員當選、同六年及九年の改選に再選十二年三月迄勤務、其間大正三年四月郡農會評議員となり同年八月同副會長となり同九年四月迄勤務同月又評議員となり十二年三月滿期
明治三十八年伊那町劇場旭座の創立せらるゝや、推されて專務理事となり、以て現在に至る

伊那町

## 福澤定治君

明治四年八月二十日を以て生る
明治二十五年頃山寺區の事務に參與以來今日に至る迄引續き區會議員の職に在り、其間區長代理たること二回、區長たること二回、同區の重要事務の一として參與せざるはなしと云ふ
伊那消防組には小頭より部長となり組頭となり現職中
伊那町會議員たること二回現に其職に在り
其他町農會幹事、農事組合長、産業督勵委員、町是調査會幹事、縣税戸數割資力調査委員、衛生組合副長、小學校建築委員、村社氏子總代、常圓寺檀徒總代、西天龍耕地整理組合會議員及同組合監査員等町及區其他公共事務に鞅掌せる所枚擧に遑あらず
尚弟英三郎君は姫路師範學校教諭として、弟哲四郎君は海軍少佐として勤務中、又二女かをる嬢は日本女子大學在學中なりと云ふ

伊那町

## 福澤勝治郎君

明治三十七年五月消防組部長拜命以來數多の名譽職に選出され坂下區長及同代理を爲すこと數回熱心に自治に奔走する所あり明治四十二年三月伊那町會議員となり大正六年三月再び町會議員に選出さる
大正元年五月より同四年九月迄伊那消防組頭に任命せらる
尚伊那町長及助役に擬せらるゝこと再三なりしも固辭して諾けず現信州銀行が松本貯金銀行當時より伊那支店に在職し一意斯業に努力しつゝあり



小學校卒業後商店を經營し大いに奮闘しつゝあり

伊那町

## 福澤六太郎君

伊那町

## 福澤八彌君

大正十二年山寺區長勤務
大正十四年四月伊那町會議員當選現任中
大正十五年上伊那屠畜業組合創立せらるるや推されて
組合長となり現に其職にあり

伊那町

## 小平修二君

明治三十六年獨逸協會卒業
同四十一年千葉醫學專問學校卒業
同四十一年十二月臺灣總督府醫學專問學校教授に就職
明治四十五年六月辞任
同上の間日本赤十字臺灣支部醫院眼科部長勤務
長野縣醫師會議員
上伊那醫師會理事
株式會社南信每日新聞社專務取締役
大正十一年荒井區長勤務
大正六年より學校醫、消防醫となり現在に至る
大正十三年より現在荒井西町水道組合長
大正十四年四月町會議員に當選現任中
大正十四年第二回國勢調査委員を命ぜらる

伊那町

## 小池新衛君

明治十八年伊那村外二ヶ村戸長役場筆生に選任せらる
同二十二年四月伊那村會議員當選、二十五年三月迄勤務（現在の伊那町）
同二十二年上伊那全郡聯合町村會議員當選
同二十四年五月上伊那郡會議員當選、爾來每改選期に再選し三十六年十月迄勤務、其間同三十年四月郡參事會員となり、三十二年十一月郡會議長となる
同二十五年四月伊那村學務委員となり、同二十六年一月迄勤務（現在の伊那町）
同二十八年三月伊那村（今日の伊那町）長に當選、三十一年九月迄勤務
同三十年五月所得稅調査委員當選、爾來引續き同四十五年迄勤務
同三十六年九月長野縣會議員に當選、同四十年九月再選副議長となる
同三十八年七月相續稅審査委員當選、同四十四年五月再選
大正二年四月伊那町會議員當選、同十年三月迄勤務、同三年七月伊那町學務委員に當選、同七年七月迄勤務
同六年四月再び伊那町長に當選、七年四月退職
其他信州銀行取締役並に上伊那銀行取締役副頭取たり
又嘗て明治四十年茨城縣下舘町に於て陸軍大演習の際宴會に召され御陪食の榮を賜はり、同四十二年十一月十日栃木縣宇都宮市に於て陸軍特別大演習の際大宴會に召され御陪食の榮を賜はりたることあり

伊那町

## 小池源太郎君

明治二十二年松本中學校卒業
明治三十七年四月伊那町會議員に當選、同四十三年四月再選、大正二年三月滿期退職
明治四十年西町區長勤務
同四十四年六月伊那稅務署管内所得稅調査委員當選
大正四年十月五日上伊那郡會議員に當選、同月二十五日同議長に當選、同八年十月滿期退職
同八年八月伊那町生糸信用販賣組合長に當選
同十年三月伊那町長に當選就職、同十一年三月辭職其間伊那町農會長兼務
同十年六月伊那稅務署管内所得稅調査委員に當選、同十四年滿期退職
其他信州銀行伊那支店長(元松本貯金銀行以來)たること二十九ヶ年なり



明治二十九年伊那町立尋常小學校東部建築委員勤務
伊那町農會第一回穀菽品評會審査委員勤務
明治三十三年に境區總代を勤む
大正六年に境區長を勤務
大正六年三月伊那町會議員當選四年間勤務
大正五年町農會評議員當選、大正九年迄勤務
大正八年伊那尋常小學校東部增築に付建築委員勤務
大正十一年より十四年迄
伊那東大社氏子總代勤務

伊那町

## 小嶋千代太郎君

伊那町

## 宮嶋兼三郎君

慶應元年十一月二十八日を以て生る
明治二十七八年戰役に從軍、功を以て勳八等に叙せらる、其後伊那町會議員たること四期、明治四十四年十月上伊那郡會議員に當選、同年十一月郡參事會員となり、大正二年七月辞職、其他伊那町學務委員、伊那町消防組頭等町及區其他の公共事務に鞅掌せること枚擧に遑あらず、就中特に記すべきものは、明治三十八年より引續き今日に至る迄、伊那町林業委員勤務、其間に荒癈しつつありし字鳩吹山に七十四町歩の學林を設置し、孜々として其造林に力め一大森林を成さしめ、今や數十萬圓の價値を生せしむるに至らしめたる功勞は寔に沒すべからざるものなりと云ふ

伊那町

## 三澤莊衛君

大正十二年四月一日縣税戸數割所得調査委員を囑託せらる
同十三年二月恩賜財團濟生會へ寄附せるに付表彰せらる
同十三年西町區長代理者に當選
同年三月縣税戸數割事務取扱を囑託せらる
同十四年西町區會議員當選
同十四年六月產業統計調査員を囑託せらる
同十五年再び西町區會議員當選
同十五年伊那町青年會長に當選
三澤家は伊那町西町（舊西町村）の名家にして先代に於ける主なる事蹟を列記すれば左の如し
曾祖父信十郎君（明治四年以後の分）
明治四年七月晦日第五區副長被仰付
同五年一月高遠縣を廢せられ松本に筑摩縣設立の際第百三十五區戸長被仰付（現在の伊那町の内大字伊那を區域とす）
同七年五月十日準等外五等第十七大區十小區戸長被仰付（區域前に同じ）
同八年五月二十二日準等外三等伊那郡伊那村（現在の伊那町の内大字伊那）戸長被仰付筑摩縣より長野縣管下に移り同十二年六月迄勤務
同十五年五月二日長野縣より上伊那郡第二十七番學區學務委員被仰付同十六年依願職務差免さる
祖父初代莊衛君
明治十三年十月西伊那部學校世話掛拜命
同十七年六月二日伊那村戸長役場筆生被仰付
同十七年八月二十六日伊那村衛生委員拜命兼務
同十八年三月十八日伊那村外二ヶ村戸長役場筆生拜命
同二十一年三月依願免職
同二十年八月郡役所及警察署新築に付寄附金募集を委託せらる
同二十年九月二十日所得税調査委員選擧人に當選
同二十一年十二月伊那村會議員及伊那村伊那部村福島村聯合村會議員に當選
同二十二年四月町村制執行せられ伊那村伊那部村福島村を合併し伊那村と改稱同村會議員に當選

同年五月十五日伊那村長に當選、同二十三年十二月四日辞職す、地價修正の完成等に特に盡力す
同二十三年五月一日衆議院議員選擧伊那村西箕輪村投票所管理を命せらる
同年七月二日長野縣第六區衆議院議員選擧會書記を命せらる
嚴父先代莊衛君
明治二十七年十二月一年志願兵として近衛師團入營、
同二十八年四月一日歩兵一等卒に同年六月上等兵に進み九月歩兵二等軍曹に進む同二十八年十一月明治二十七、八年戰役從軍記章を授與せらる
同年十一月三十日歩兵一等軍曹に任せられ、十二月一日豫備役に編入せらる
同二十九年伊那尋常小學校建築委員を囑託せらる
同三十年三月三十日歩兵少尉に任せられ、四月一日後備役に編入せらる
同三十年十月一日伊那町消防組西町部長任命
同三十三年三月大本山總持寺再建事務所より勸募委員補に任せらる
同三十三年より三十五年迄上伊那尙武會より体育場講師を囑託せらる
同三十三年伊那町學務委員に當選
同三十四年三月町會議員選擧掛に選任せらる
同三十四年伊那消防組頭に任命同三十六年依願被免
同三十五年六月日本体育會長野支部上伊那委員を囑託せらる
同三十五年十一月長野聯隊區在鄕將校會幹事を囑託せらる
同三十六年二月衆議院議員選擧投票立會人に選任せらる
同三十七年二月充員召集の爲め近衛後備歩兵第一聯隊應召
同三十七年六月十四日出征の爲め常陸丸に乘船宇品港出帆
同年六月十五日陸軍歩兵中尉に任し、從七位勳六等に叙せられ、單光旭日章を賜はる
同日玄海灘に於て露國艦隊に襲擊せられ戰死せらる



明治七年七月十三日を以て生る
明治三十二年御園區長勤務
同三十五年消防組部長勤務
同三十七年日露戰役に從軍せり
同三十一年上伊那郡伊那町在鄕軍人分會副會長勤務
大正二年伊那町會議員當選
大正四年伊那町消防組頭任命
大正六年再び伊那町會議員當選
大正十四年株式會社上伊那銀行木下支店長勤務

伊那町五六三番地
陸軍歩兵軍曹勳七等功七級 **御子柴悅太君**

大正八年御園區長代理勤務
大正九年區長勤務
明治三十九年十二月より大正三年一月迄伊那消防組小頭勤務
大正三年一月より大正五年十一月迄伊那消防組御園部長勤務

伊那町

## 御子柴肇君





## 三澤義晃君

文久元年十一月廿四日を以て生る
明治十八年三月上伊那郡書記勤務
同十九年八月伊那稅務署勤務
同二十一年九月愛知縣技師より測量術傳習を受け、爾來二十六年に至る間、各町村伊那町は勿論美篶村川手區富縣村櫻井區南箕輪村村圖等實測より測圖に至る迄一切調製、同二十七年一月野底耕地總代勤務
同年四月より三十三年迄伊那村外二ヶ村役場書記勤務
同三十一年より三十九年迄區事務數回勤務
同四十年三月伊那町會議員當選
同四十二年十二月伊那町助役當選就職、同時に學務委員並に町農會副會長、日本赤十字社補助分區委員囑託、尙武會副會長等兼務す、四十三年九月伊那町專務學務委員當選就任
其他種々公共團体職務に從事したれども省略す

明治十三年十二月五日を以て生る
東京錦城小學二年修業
明治三十五年伊那町役場書記勤務
明治三十七八年日露戰役に出征し、勳八等白色桐葉章を給はる
明治三十九年伊那町消防部長勤務
明治四十一年福島區長に當選す
大正六年伊那町會議員に當選す
大正十年再び伊那町會議員に當選す
大正十四年三度伊那町會議員當選す
大正十三年町農會總代に當選す

伊那町一〇八二番地

## 三澤貞良君



伊那町

## 清水米三郎君

明治三十一年二月伊那町役場書記に選任せられ、三十二年一月迄勤務
同三十三年四月伊那町收入役に選任せられ、三十四年四月迄勤務
同三十四年十月再び役場書記に選任せられ、同三十八年四月迄勤務
同三十九年荒井區長勤務
同四十年一月伊那消防組部長を命せられ、同四十一年三月退職
大正二年四月伊那町會議員に當選、同六年四月滿期退職
同三年三月伊那町助役に當選、同十月退職
同四年再び荒井區長勤務
同五年九月より七年三月迄伊那生糸販賣組合專務理事勤務、同七年三月より八年八月迄同組合長勤務、同月より再び專務理事となり十一年五月迄勤務、其後引續き現今に至る迄組合理事たり
大正十年四月再び伊那町會議員に當選、同十四年四月滿期退職
同十年三月伊那町專任學務委員に就職、同十四年三月迄勤務
同十二年三月伊那町農會總代に當選、同四月上伊那郡農會議員となり、同五月郡農會評議員となり、現職中
同十二年六月伊那消防組頭を命せられ、十三年十一月迄勤務
同十四年一月伊那町長に當選就職現任中
尙清水家は伊那町荒井(舊荒井村)の舊家にして、歷代の事蹟判明し居る分を記すれば左の如し

初代　長三郎　貞享二年より四年迄名主役
二代　長三郎　元祿三年より十一年迄名主役
三代　六右衞門　享保六年より同八年迄及同十四年迄名主役、正德五年、享保十三年、同十八年、寛保二年、延享二年、長百姓役
四代　鄕助　寶暦六年より七ヶ年間及明和四年より四年間、名主役
寶暦四年より二年間、明和二年より二年間、安永三年、長百姓役

寛延元年より三年間組頭役
五代　太左衛門改名郷助　安永八年より天明三年迄、
寛政五年より七年迄　名主役
安永四年より二年間、天明四年、同七年寛政二年
同八年より九年迄　長百姓役
六代　周　助　享和二年　名主役
七代　太左衛門　天保十四年より三ヶ年間　名主役
天保十一年より二年間、嘉永元年　長百姓役
文政十一年　組頭役
八代　長三郎　明治四年より五年迄副戸長
九代　房太郎　明治二十七年荒井區總代
十代　米三郎君は同町宮島四郎治氏の三男なり、幼年にして清水家に養はる

伊那町四一一八番地

## 宮島見家重君

明治十年十二月十日を以て生る
明治三十八年四月荒井部落産業督勵組合長當選
大正三年一月伊那消防組荒井部々長任命
同年三月伊那町農會幹事當選
大正四年一月荒井區會議員當選
大正五年一月荒井區長當選
同六年一月同區會議員當選
同十二年三月伊那町農會總代當選
同十四年一月荒井區會議員當選
同年三月伊那町會議員當選
同十五年一月荒井區長代理者當選



伊那町

## 重盛二三四君

君は西箕輪村出身にして、伊那町に於て醬油釀造業を經營せられつつあり、同町公務に鞅掌せる略歴左の如し

明治四十年三月より現在迄引續き五期伊那町會議員勤務
明治三十五年伊那消防組坂下消防部長勤務
明治四十二年坂下區長代理勤務
明治四十五年同上勤務
大正七年八月より八年二月迄伊那町學務委員勤務
大正八年二月より十年一月まで伊那町長勤務
大正八年より十一年迄伊那町商工會顧問
大正十二年六月より現在營業税調査委員
大正十四年三月より現在伊那町學務委員
大正十五年伊那町土木委員現任中

伊那町

## 故城倉節造君

明治四十三年十二月より四十四年十二月迄伊那消防組部長勤務
大正六年古町區長勤務
大正六年四月伊那町會議員に當選
同十年四月滿期退職
大正十四年伊那町商工會長勤務中同年七月病を得、十五年一月前途多望の身を以て遂に逝く惜哉



伊那町一一五六番地

## 平澤昌宗君

君幼名を冊治郎と云ひ龍城と號し別號を野龍と曰ふ、父平澤宇右衛門母唐澤氏の二男なり、文久二壬戌年十二月二十四日信濃國伊那郡川下り郷野底村門屋に生る今の伊那町なり、慶應元乙丑年長兄病歿す、明治三庚午年二月父君宇右衛門耕齊翁の村塾に入る、明治五年七月筑摩縣第二十六番小學（現伊那町、南、西箕輪の三町村區域にて常圓寺を假校舍とす）に入り、校長中村元起先生の四書講義を聞き、其第四分校（伊那町の内上牧野底の二區にて廢堂等接院を假校舍とす）に通學し分校長父君耕齊翁の訓陶を受く、明治七年三月乃至八年三月小學校の公暇日を以て高遠町北原安定久保常兩先生に就き漢文及數學を兼修す、同八年四月小學科程を中止し、父君耕齊翁筑摩縣屬本山氏の疑獄に連座し出縣するに從ひ、松本町に出で師範學校訓導緒方益井先生に寄り讀書文章代數等の學を修む、明治十年四月小學全科卒業優等に付本縣より第一等賞を附與せらる同年五月中箕輪村木下學校助教囑託、明治十二年七月十日師範學校臨時入學許可、十二月師範學科第一期科程卒業、歸省偶々母校上牧學校の厚聘に依り其教職に就けり、十四年四月四日父翁退隱家督相續、十七年四月濱島氏長女を娶る、十九年四月任上伊那郡小河内學校訓導、二十一年二月任中箕輪學校訓導、二十二年六月任伊那尋常小學校訓導、同年十月住所野底支校（上牧學校福島學校合併）開校の典を擧ぐ、二十五年二月吳竹園馬場凌冬氏の卒ある正風俳林圓熟社に入る、二十七年三月九日、明治天皇並皇后兩陛下御結婚滿二十五年御祝典御擧行に付酒饌料下賜、二十九年七月十七日父君耕齊翁逝く、三十年常圓寺樫徒總代墓地管理者に就職、三十一年十月任地伊那町小學校野底支校々舍の改築を企劃し、三十三年一月十八日落成開校の典を擧ぐ三十四年十一月三十日小學校組織變更即日任伊那第二尋常小學校訓導兼校長、三十七年三月三十一日依願退職退隱料下附、三十七年四月四日生母歿す、同年十月美篶村及伊那町の共有に係る字六道原及字大原分割全權委員に擧げられ、錯綜せる兩町村の境界を更定し、土地分割所有權の移轉を爲し數百年來紛擾を極めたる爭論の根據を絶てり、同三十八年七月專任學務委員當

選、同三十九年野底區長、四十年三月伊那町助役、同四十三年九月伊那町長に就職、同年小學校雨天体操場起工竣成、小澤川上流字明澤砂防工事施行、小學校々地擴張校舍增築、同四十四年五月町立伊那實科高等女學校創立、同四十五年三月町豫算成立の時を以て病の爲町長辭任、大正三年再ひ伊那町學務委員當選、同四年野底報德產業組合成り組合長理事となる、同五年六月伊那町生糸組合成り理事に擧げらる、同九年三月分家せられたる二男彦也を失ふ、大正十年十二月是より先商船學校出身海軍豫備少尉正八位商船學校講師たりし四男四郎病を以て逝く、同十一年伊那町生糸信用販賣組合長、伊那生糸信用販賣組合聯合會龍水社監事、產業組合上伊那郡部會評議員就職、同年九月嫡男昌平妻病で死す、同十二年六月九日暴水の爲めに嫡男昌平を失ふ、同年十二月上伊那郡生糸同業組合副會長となる

## 伊那町　樋代準平君

明治二十五年一月十七日を以て生る
大町中學校を卒業し、又千葉醫學專問學校藥學科を卒業
大正九年七月第一回國勢調査委員任命
大正十年九月十六日伊那郵便局長に任せらる
同十四年六月伊那稅務署管內所得稅調査委員に當選
其他町及區の公共事務に執掌せること尠からず



## 西春近村三三番地　唐木茂君

明治十二年三月三日を以て生る
西春近村役場書記、助役、村長等に累任村長は大正元年十月就職、同三年四月退職
大正四年十月上伊那郡會議員當選、同五年六月名譽職參事會員當選、同八年十月滿期退職
其他村會議員、學區會議員、學務委員、建築委員、村農會長、郡農會地方事務員、消防組頭、同部長、聯合衞生組合長、公有林野整理委員、耕地總代、耕地整理組合長、堤防總代、產業組合理事、養蠶組合長等村及區其他の公共事務に執掌せること枚擧に遑あらず

## 唐木助雄君

明治十九年五月三日を以て生る
明治三十六年上伊那農業學校卒業
大正九年西春近村唐木耕地整理組合副組合長に就任
同耕地整理事業に盡瘁完成す
大正十一年七月西春近村會議員に當選す
同十三年西春近村信用購買組合理事に就職す
同十四年五月小出治水組合長就任天龍川沿岸堤防事業に盡瘁す





## 唐木庄吉君

明治三十九年小出衛生組合長
同三十九年村社氏子總代
同四十年村岡耕地總代
同四十年小出衛生組合長
同四十四年五月より大正三年二月迄西春近村北學區會議員
同四十五年小出耕地總代
同年產業督勵委員
大正元年小學校建築專務委員
同三年七月より同七年七月迄西春近村會議員
大正四年北學區學林取締委員
自大正七年二月至十一年二月北學區會議員
大正七年九月より同十一年九月迄北學區學務委員
大正七年九月より西春近消防組頭就職
大正十二年五月より同年十月迄同村助役勤務